

令和7年度

橋梁長期保全事業

菅田橋橋梁補修工事

仕様書

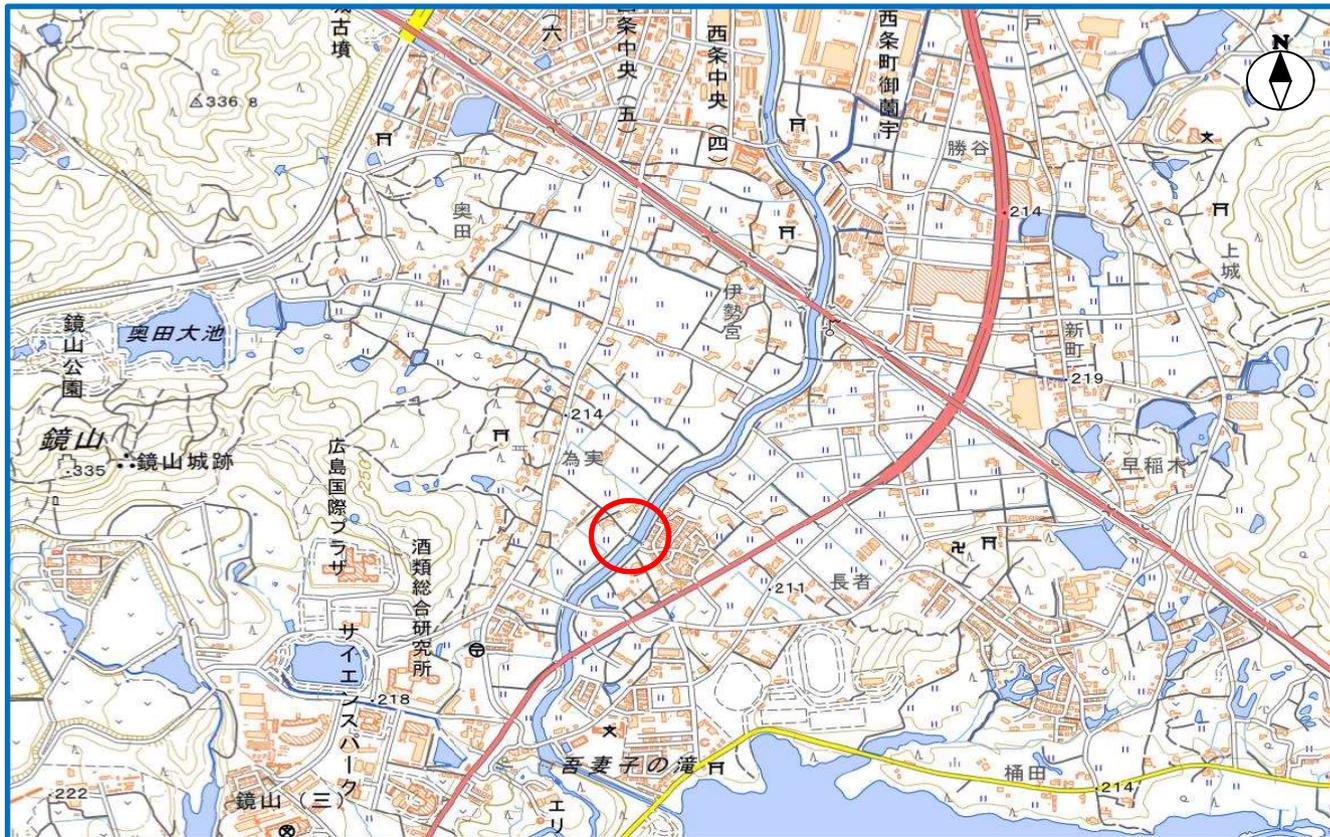
施 工 場 所 東広島市西条町御藪宇

# 位置図

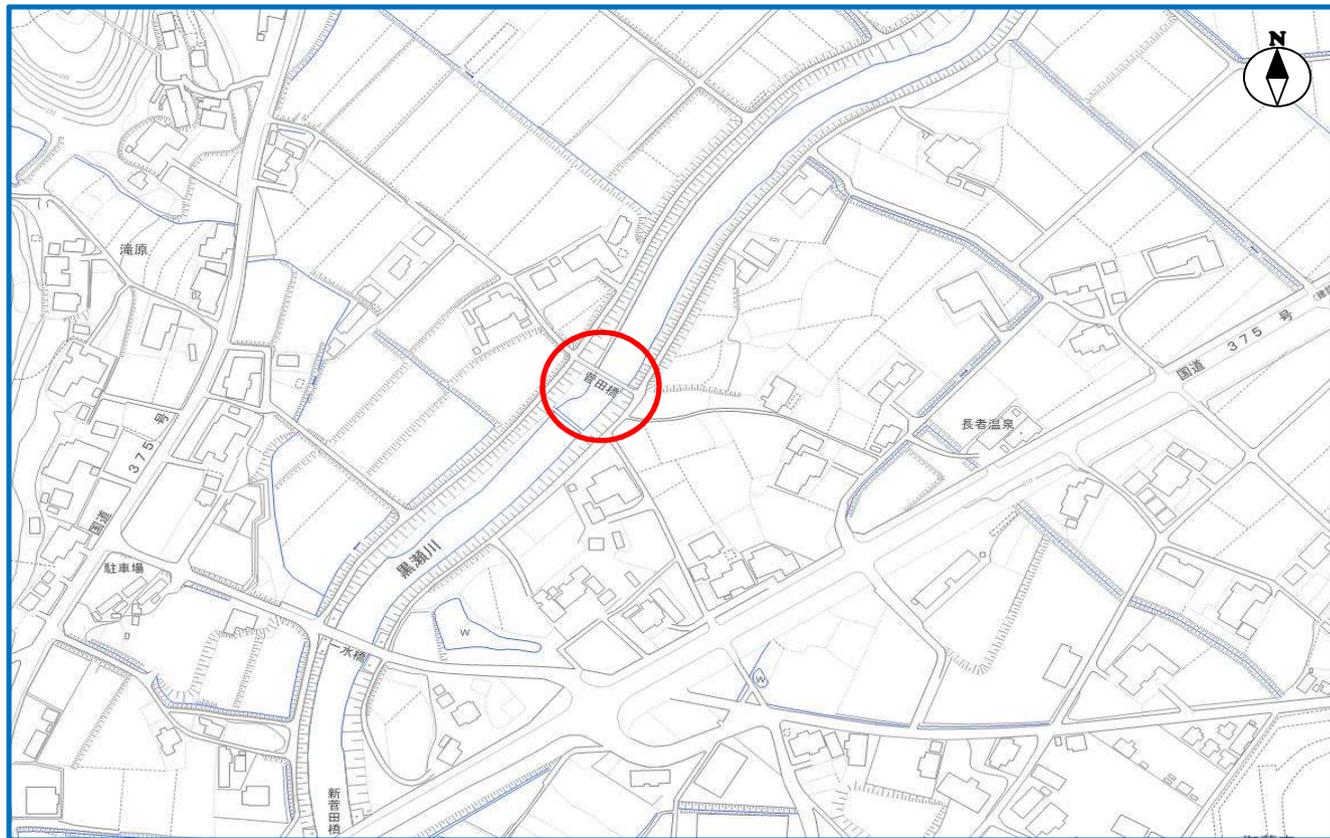
令和7年度 橋梁長期保全事業 菅田橋橋梁補修工事

橋梁名： 菅田橋

町名： 西条町御園宇



# 詳細図



# 特記仕様書

(令和7年度 橋梁長期保全事業 菅田橋橋梁補修工事)

## 第1章 総則

1. 適用
2. 前払金
3. 現場代理人の兼務
4. 現場作業終期日
5. 履行報告
6. 官公庁等への手続き等
7. 工事中情報共有システム（受注者希望型）
8. 熱中症対策に資する現場管理費の補正
9. 主任（監理）技術者及び現場代理人の配置について
10. 法定外の労災保険の付保
11. 週休2日適用工事等
12. 建設副産物の取り扱いについて

## 第2章 工事材料

1. 見本・品質証明資料
2. 品質規格証明資料等
3. 溶融スラグを利用した資材の使用

## 第3章 施工条件

1. 工程
  - (1) 関係機関との協議
2. 安全対策
  - (1) 交通誘導警備員・警戒船・保安要員
3. 建設副産物
  - (1) コンクリート殻（有筋）（搬出）
  - (2) アスファルト殻（搬出）

## 第4章 その他

1. 工事関係書類
2. 工事写真
3. 疑義の解決等
4. 仮設工

# 特記仕様書

## 第1章 総則

### 1. 適用

本工事の施工にあたっては、「土木工事共通仕様書（令和6年8月）広島版（適用区分「広島」及び「広島県）」及び東広島市制定の第15編下水道編（最新版）に基づいて実施しなければならない。この場合においては、次のとおりとする。

- (1) 「広島県」とあるのは「東広島市」と読み替える。（ただし、第1編第1章第1節1-1-1-25第10項、第1編第1章第2節1-1-2-1第3項、1-1-2-8第1項、1-1-2-9第1項、1-1-2-10第1項、1-1-2-11第1項、第6項、第8項、1-1-2-14第2項、1-1-2-16第1項、第3項、第2編第1章第3節2-1-3-1、第3編第1章第2節3-1-2-3第2項においては読み替えない。）
- (2) 「建設工事請負契約約款」とあるのは「東広島市の建設工事請負契約約款」と読み替える。
- (3) 「土木工事監督規程」とあるのは「東広島市建設工事監督事務取扱要綱」と読み替える。
- (4) 「土木工事検査規程」とあるのは「東広島市建設工事検査規程」と読み替える。
- (5) 「建設工事執行規則第19条の1」とあるのは「東広島市建設工事執行規則第19条第1項」と、「建設工事執行規則第41条の2」とあるのは「東広島市建設工事執行規則第41条第2項」と読み替える。
- (6) 「広島県契約規則第2条の1」とあるのは「東広島市契約規則第2条第1項」と読み替える。
- (7) 「土木工事検査技術基準」とあるのは「東広島市の「土木工事検査技術基準）」と読み替える。
- (8) 「低入札価格調査制度事務取扱要綱」とあるのは「東広島市低入札価格調査制度事務取扱要領」と読み替える。
- (9) 「広島県の建設工事入札参加資格」とあるのは「東広島市の競争入札参加資格」と読み替える。
- (10) 広島県の「建設業者等指名除外要綱」とあるのは東広島市の「建設業者等指名除外基準要綱」と読み替える。
- (11) 「建設工事における低入札価格調査制度事務取扱要綱」とあるのは「東広島市低入札価格調査制度事務取扱要領」と、「建設工事における低入札価格調査制度事務取扱要綱第10条」とあるのは「東広島市低入札価格調査制度事務取扱要領第11条」と読み替える。
- (12) 「県発注工事等における暴力団排除のための契約制限要綱」とあるのは「東広島市建設工事暴力団等排除要綱」と読み替える。
- (13) その他

編	章	節	条	見出し	項	特記及び追加仕様事項
1	1	2	5	工事の下請負	3から6まで	適用しない。
1	1	2	14	施工管理	1	適用しない。
1	1	2	16	環境対策	4	適用しない。
1	1	3	3	現場代理人及び主任技術者又は監理技術者	5から6まで	適用しない。
1	1	3	4	下請負及び契約の制限	1(2)	適用しない。
1	1	3	5	主要資材の購入		適用しない。
1	1	3	7	契約後VE工事		適用しない。
1	1	3	9	県産木材の活用	(2)	適用しない。
1	1	3	10	工事現場の現場環境改善等		適用しない。
1	1	3	11	現場環境改善（ウィークリースタンス）の実施	(4)[2]から[7]まで	適用しない。
3	1	1	1	請負代金内訳書		適用しない。
3	1	1	2	工程表		適用しない。
3	1	1	7	工事完成図書の納品	2から6まで	適用しない。
3	1	1	8	技術検査	3から5まで	適用しない。
3	1	2	1	請負代金内訳書		適用しない。
3	1	2	2	工程表		適用しない。
3	1	2	5	工事完成図書の納品		適用しない。
3	1	2	6	提出書類	2	適用しない。
3	1	3	1	工事完成図書の納品		適用しない。
3	1	3	2	技術検査	2	適用しない。

## 2. 前払金

契約金額が50万円以上の建設工事の場合は前払金を請求することができる。前払金は請負代金の40%以内とする。また、契約に当たって契約約款特約事項第22項により中間前払金を選択するものにあつては、中間前払金は請負代金の20%以内とする。その他、前金払・中間前金払の適用は次の要領による。

- ・建設工事請負代金前金払実施要領
- ・建設工事請負代金中間前金払実施要領
- ・東広島市余裕期間制度適用工事に係る事務取扱要領

## 3. 現場代理人の兼務

- 1 現場代理人の兼務については、「技術者等の適正配置について」によるものとする。
  - 2 発注者は、受注者からの申請に基づき、兼務する各工事の内容、工程等を勘案し、現場代理人の兼務について承認の適否を決定し、承認する場合は現場代理人兼務承認書により、承認しない場合は現場代理人兼務非承認書に承認しない理由を記載の上、速やかに受注者に通知する。
  - 3 発注者は現場代理人の兼務について、次に掲げる事由に該当すると認めるときは、現場代理人兼務承認取消書により、その承認を取消すものとする。
    - (1) 兼務を予定する工事の発注者が兼務を承認しないことが明らかになったとき
    - (2) 兼務を承認した日から起算して14日（東広島市の休日を定める条例（平成元年東広島市条例第6号）第1条第1項に規定する市の休日を除く。）を経過した後においても、兼務先の発注者が兼務を承認したことを証する書面の写しが提出されないとき
    - (3) 兼務申請において、重要な事項について虚偽の申告をし、又は重要な事実の申告を行わなかったことが判明したとき
    - (4) 兼務の承認後、重要な事項や重大な状況の変化について報告を行わない等、必要な報告を怠ったことが判明したとき
    - (5) 著しい状況の変化により、兼務を承認することが適当でなくなったとき
    - (6) その他、発注者が兼務を承認することが適当でなくなったとき
  - 4 重要な事項について虚偽の申告を行う等、不適切な申請を行った者、又は、兼務の承認後に重要な事項や重大な状況の変化について報告を行わない等、必要な報告を怠った者に対しては、請負契約に基づく是正措置の請求や指名除外等の必要な措置を行うことがある。
- ※ 同一町内における町とは西条町、八本松町、志和町又は高屋町にあつては昭和49年4月20日前の町の区域とし、黒瀬町、福富町、豊栄町、河内町又は安芸津町にあつては平成17年2月7日前の町の区域とする。

## 4. 現場作業終期日

本工事の施工に当たっては、工期末の30日前までに、下記の作業を終了しなければならない。

- ・現場作業

なお、現場作業終期日までに適時、速やかに「土木工事共通仕様書（令和6年8月）広島版」第1編1-1-1-22第2項第3号に記載してある出来高が確認できる資料を監督職員に提出しなければならない。

## 5. 履行報告

履行報告の提出にあつては、実施工程表と平面図（施工済み箇所を着色）又は、進捗状況が確認できる写真を添付すること。なお、月締め報告とし、翌月7日までに提出すること。

## 6. 官公庁等への手続き等

受注者は、関係官公庁及びその他の関係機関との諸手続きにおいて許可、承諾等を得た場合はその書面（写し）を提出するものとし、更新手続き（許可内容が同じもの）の場合は、届出等の鑑のみとする。

## 7. 工事中情報共有システム（受注者希望型）

- (1) 本工事は、工事中情報共有システムの対象（受注者希望型）である。
- (2) 工事中情報共有システムの利用するにあたり、発注者に連絡の上、利用申込すること。
- (3) 本工事で使用する情報共有システムは次のとおり。

広島県工事中情報共有システム（一般社団法人 広島県土木協会）

<http://www.hdobokuk.or.jp/koujijyouhoushisutemu2.html>

- (4) 工事中情報共有システム利用に必要な費用は設計金額に含まれている。
- (5) 利用にあたっては「東広島市発注工事における広島県工事中情報共有システム利用実施要領」に基づくこと。
- (6) 運用にあたっては「広島県工事中情報共有システム運用ガイドライン」に基づくこと。

この場合においては、次のとおりとする。

- 1) 「1.3. 適用する基準」のうち、「土木工事監督規定（広島県）」および「土木工事監督実施要領（広島県）」は「東広島市建設工事監督事務取扱要綱」と、「土木工事検査規定（広島県）」とあるのは「東広島市建設工事検査規定」と、「土木工事検査技術基準（広島県）」とあるのは「土木工事検査技術基準（東広島市）」と読み替えるものとする。
- 2) 「CAD製図基準（国土交通省）」および「CAD製図基準に関する運用ガイドライン（国土交通省）」は適用しない。
- 3) 「4. 検査」は適用しない。
- 4) 検査は、発注者と協議のうえ、紙媒体による検査と電子検査の併用とすることができるものとする。
- 5) 受注者は、工事中情報共有システムにより処理した工事完成図について、電子成果品として納品するほか、紙の成果品も納品すること。

## 8. 熱中症対策に資する現場管理費の補正

- (1) 本工事は、工事現場の熱中症対策に資する経費に関して、現場管理費の補正を行う工事である。
- (2) 工期(工事の始期日から工事の終期日までの期間で、準備期間、施工に必要な実日数、不稼働日、後片付け期間の合計をいう。なお、検査期間13日、年末年始6日間（12月29日～1月3日）、夏季休暇3日間（国民の祝日である山の日次の日から土曜日、日曜日、振替休日を除く3日間とする。）、工場制作のみを実施している期間、工事全体を一時中止している期間は含まない。）期間中の真夏日の状況に応じて、変更契約時に現場管理費の補正を行うものとする。
- (3) 真夏日とは、日最高気温が30度以上の日をいう。また、日最高暑さ指数（WBGT）が25度以上の日をいう。  
ただし、夜間工事のみの場合は、作業時間帯の最高気温または最高暑さ指数（WBGT）を対象とする。
- (4) 気温の計測箇所及び結果は、施工現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所の気温または環境省が公表している観測地点の暑さ指数（WBGT）を用いることを標準とする。
- (5) 受注者は、工事期間中における気温の計測箇所、用いる計測値及び計測期間（計測開始日、計測終了予定日）を明記した施工計画書を工事着手前に提出し、計測結果を工事完成時までに監督職員に提出すること。
- (6) 受注者は、計測終了日について、工事完成時までに監督職員と協議するものとする。
- (7) 積算方法は次のとおりとする。

### 1) 補正方法

ア 受注者より提出された計測結果の資料を基に、補正値を算出し現場管理費率に加算する。  
なお、現場管理費率の補正は「積雪寒冷地域で施工時期が冬期となる場合の補正」、「緊急工事の場合」及び本補正値を合計し、2%を上限とする。

イ 真夏日率＝工期期間中の真夏日÷工期

ウ 補正値（%）＝真夏日率×1.2

2) 補正値の計算結果は、パーセント表示で小数点3位を四捨五入して2位止めとする。

- (8) 受注者より、熱中症対策に資する現場管理費の補正が不要である旨の協議があった場合は、補正を行う工事から対象外とすることができる。
- (9) 検査職員から修補の指示があった場合、修補期間は対象外とする。

## 9. 主任（監理）技術者及び現場代理人の配置について

東広島市発注工事における主任（監理）技術者及び現場代理人の配置についての取り扱いは、「技術者等の適正配置について」によるものとする。

## 10. 法定外の労災保険の付保

- 1 本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。
- 2 受注者は、建設工事請負契約約款第4条7条に基づき、法定外の労災保険の契約締結をしたときは、その証券又はこれに代わるものを速やかに監督職員に提示しなければならない。
- 3 法定外の労災保険は、政府の労働者災害補償保険とは別に上乗せ給付等を行うことを目的とするものであり、（公財）建設業福祉共済団、（一社）全国建設業労災互助会、全日本火災共済協同組合連合会、（一社）全国労働保険事務組合連合会又は保険会社との間で、契約を締結しているものとする。

## 11. 週休2日適用工事等

本工事は、週休2日適用工事（発注者指定型）であり、「東広島市週休2日適用工事等実施要領（最新版）」又は「東広島市週休2日適用工事等実施要領（農林工事）（最新版）」に従うこと。

なお、実施要領に基づき提出する必要がある様式「休日取得計画表」は「検査課HP>施工関連資料>週休2日適用工事等の実施について」に掲載している。

## 12. 建設副産物の取り扱いについて

本工事における建設副産物の取扱いについては、土木工事共通仕様書1-1-2-11 建設副産物のとおり取り扱うこととする。なお、「再生資源利用計画」、「再生資源利用促進計画」及び「実施書の提出」については、次のとおりとする。

### 1 再生資源利用計画及び再生資源促進計画

受注者は、コンクリート、コンクリート及び鉄から成る建設資材、木材、アスファルト混合物等を工事現場に搬入する場合には、法令に基づき、再生資源利用計画を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。また、受注者は、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥又は建設混合廃棄物等を工事現場から搬出する場合には、法令に基づき、再生資源利用促進計画（5の確認結果票を含む）を作成し、施工計画書に含め監督職員に提出しなければならない。なお、その内容に変更が生じたときは、速やかに利用計画及び促進計画を変更し、監督職員に報告しなければならない。

### 2 計画の掲示及び公表

受注者は、1の再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の見やすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）し、公衆の閲覧に供するとともに、インターネットの利用により公表するよう努めるものとする。

現場掲示様式については、次のURLを参考に作成すること。

[https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/recycle/d03project/d0306/page\\_03060101credas1top.htm](https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/recycle/d03project/d0306/page_03060101credas1top.htm)

### 3 実施書の提出

受注者は、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を作成した場合には、工事完了後速やかに実施状況を記録した再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を監督職員に提出しなければならない。なお、受注者は、再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書の作成後、工事完成から5年間保存しなければならない。

### 4 工事現場の管理体制

受注者は、再生利用の促進を行うため、工事現場における建設副産物責任者を置くことにより、管理体制を整備するとともに、当該責任者に対し、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画の内容について現場担当者の教育を十分行うこと及び、関係する他の施工者及び資材納入業者もこれを周知徹底することを指導するものとする。

### 5 建設発生土搬出に関する関係法令の手続きの確認及び確認結果票の作成

受注者は、再生資源利用促進計画の作成にあたり、建設発生土を工事現場から搬出する場合は、あらかじめ次に掲げる事項を確認し、また各事項の確認の結果を記載した書面（確認結果票）を作成しなければならない。

※確認結果票は「広島県の調達情報」に掲載している。

なお、対象となる工事は請負代金額が100万円以上、または建設発生土の搬出が500m<sup>3</sup>以上の工事を対象とする。

- (1) 工事現場内の土地の掘削その他の土地の形質の変更が土壤汚染対策法（平成14年法律第53号）第3条第7項又は第4条第1項の規定による届出を要する場合にあっては、当該届出がされ

ている。

(2) 再生資源利用促進計画に記載しようとする搬出先における建設発生土の搬入に係る行為に関する次に掲げる事項

(1) 当該行為が宅地造成及び特定盛土等規制法（昭和36年法律第191号。以下「盛土規制法」という）第12条第1項、第16条第1項、第30条第1項又は第35条第1項の規定による許可を要する場合にあっては、当該許可を受けている。

(2) 当該行為が盛土規制法第21条第1項、第27条第1項、第28条第1項又は第40条第1項の規定による届出を要する場合にあっては、当該届出がされている。

(3) 上記(1)、(2)に掲げる事項のほか、再生資源利用促進計画に記載しようとする搬出先が適正であることを確認するために必要な事項その他の建設発生土の搬出に関する事項

#### 6 運搬業者への通知

受注者は、建設発生土の運搬を行う者に対し、再生資源利用促進計画及び確認結果票の内容を通知するものとする。またその内容に変更が生じたときには、速やかに運搬を行う者に通知するものとする。

#### 7 確認結果票の掲示及び公表

受注者は、確認結果票を工事現場の見やすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）し、公衆の閲覧に供するとともに、インターネットの利用により公表するよう努めるものとする。

#### 8 確認結果票の保管

受注者は、確認結果票を建設工事の完成後5年間保存するものとする。

#### 9 建設発生土の搬出先に対する受領書の交付請求

受注者は、建設発生土を再生資源利用促進計画に記載した搬出先へ搬出したときは、速やかに当該搬出先の管理者（搬出先が工事現場である場合は、当該工事現場の受注者）に対し、次に掲げる事項を記載した受領書の交付を求めるものとする。

(1) 建設発生土の搬出先の名称（搬出先が工事現場である場合は、建設工事の名称。）及び所在地

(2) 建設発生土を搬出先の受注者の商号、名称又は氏名

(3) 建設発生土の搬出元の名称及び所在地

(4) 建設発生土の搬出量

(5) 建設発生土の搬出が完了した日

#### 10 建設発生土の搬入元への受領書の交付

受注者は、建設発生土を利用計画に記載した搬入元から搬入したときは、速やかに当該搬入元の管理者（搬入元が工事現場である場合は、当該工事現場の受注者）に対し、前号に掲げる事項を記載した受領書を交付するものとする。

#### 11 受領書の内容確認

受注者は、搬出先から受領書の交付を受けたときは、再生資源利用促進計画に記載した内容と一致することを確認する。

#### 12 受領書の保管

受注者は、受領書又はその写しを建設工事の完成後5年間保存するものとする。

#### 13 建設発生土の最終搬出先までの確認

受注者は、建設発生土が再生資源利用促進計画に記載した搬出先（次の(1)から(4)のいずれかに該当する搬出先を除く。）から他の搬出先へ搬出されたときは、速やかに、当該他の搬出先への搬出に関する9(1)～(5)に関する事項を記載した書面を作成するとともに、当該書面を当該再生資源利用促進計画に係る建設工事の完成後5年間保存するものとする。建設発生土が更に他の搬出先へ搬出されたときも、同様とする。

(1) 国又は地方公共団体が管理する場所であって、受入れ完了後に当該国又は地方公共団体が受領書を交付する場合

(2) 受注者の管理下にある他の工事現場で利用するために一時堆積する場合

(3) ストックヤード運営事業者登録規定により国に登録されたストックヤード

(4) 9の受領書の土砂の利用種別が「盛土利用等」である建設発生土受入地（再搬出しないもの）

## 第2章 工事材料

### 1. 見本・品質証明資料

受注者は、次に示す材料又は監督職員が指示する材料について、見本又は品質を証明する資料を、

材料を使用するまでに監督職員に提出するものとする。また、材料の購入は監督職員の確認を受けた後に行うものとする。

区 分	材 料 名	摘 要
その他	アスファルト混合物	事前審査制度の認定混合物を除く

## 2. 品質規格証明資料等

受注者は、工事に使用した次に示す材料又は監督職員が指示する材料の品質を証明する試験成績表、性能試験結果、ミルシート等の品質規格証明書を監督職員に提出するものとする。

区 分	材 料 名	摘 要
その他	アスファルト混合物	事前審査制度の認定混合物を除く

## 3. 熔融スラグを利用した資材の使用

### 1. 熔融スラグを利用した資材の使用

再生加熱アスファルト混合物、プレキャストコンクリート製品、再生路盤材及び埋戻材等については、広島中央環境衛生組合が製造する熔融スラグ（以下「熔融スラグ」という。）を利用した資材を使用するよう努めるものとする。熔融スラグ利用及び使用する資材にあたっては「熔融スラグの有効利用促進等に関する方針」「熔融スラグ有効利用ガイドライン【品質編】、【運用編】」に準拠するものとする。

なお、これにより難しい場合は、監督職員と協議すること。

### 2. 品質管理及び確認

1. で示したもののほか、熔融スラグを利用した資材の使用における品質の管理及び確認は、広島版「土木工事共通仕様書(令和6年8月)」及び広島版「施工管理基準(令和6年8月)」によるものとする。ただし、書類により品質が確保できる項目においても、監督職員が必要と認めるものは現場検収を実施できるものとする。

### 3. 再生加熱アスファルト混合物への使用

熔融スラグを再生加熱アスファルト混合物に使用する場合、広島版「土木工事共通仕様書(令和6年8月)」の「1-1-2-16 環境対策」に示す登録リサイクル製品の使用は適用しないものとする。

### 4. 適合規格

熔融スラグの適合規格については、広島版「土木工事共通仕様書(令和6年8月)」に記載の適合規格（「2-2-3-1 一般事項 1.」）ではなく、「JIS A 5031 一般廃棄物、下水汚泥又はそれらの焼却灰を熔融固化したコンクリート用熔融スラグ骨材」を適用するものとする

## 第3章 施工条件

### 1. 工程

#### (1) 関係機関との協議

協議内容 河川管理者（広島県）と河川占用の許可及び河川管理者（漁協）と協議後  
 範囲 足場施工着手

### 2. 安全対策

#### (1) 交通誘導警備員・警戒船・保安要員

交通誘導警備員 ・交通誘導警備員の配置人数は、工事着手後、規制を要する日から4日間（2人／日）を見込んでいる。ただし、現場条件の変更等により、交通誘導警備員の人数変更が必要となった場合には、事前に監督職員と協議を行った上で変更対象とする。

### 3. 建設副産物

#### (1) コンクリート殻（有筋）（搬出）

当該工事により発生するコンクリート殻（有筋）は、広島県制定の再資源化施設一覧表に掲載されている施設に搬出するものとする。

搬出先として、運搬費と受入費(平日の受入費用)の合計が最も経済的になる再資源化施設を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き処分に要する費用(単価)は変更しない。

また、運搬距離は 7.8 km を見込んでいる。

#### (2) アスファルト殻(搬出)

当該工事により発生するアスファルト殻は、広島県制定の再資源化施設一覧表に掲載されている施設に搬出するものとする。

搬出先として、運搬費と受入費(平日の受入費用)の合計が最も経済的になる再資源化施設を見込んでいる。したがって、正当な理由がある場合を除き処分に要する費用(単価)は変更しない。

また、運搬距離は 7.0km を見込んでいる。

#### 第4章 その他

##### 1. 工事関係書類

(1) 工事関係書類の作成は、東広島市建設工事関係書類作成要領 -土木工事編-によるものとする。

(2) 工事関係書類の提出は、「契約関係書類」1部、「施工管理書類」は、工事打合せ簿による場合は2部、その他による場合は1部とする。

##### 2. 工事写真

工事写真の撮影に当っては、広島県制定「写真管理基準(令和6年8月)」によるものとし、工事写真の提出部数は、工事写真帳と原本(電子媒体)を各1部提出する。

##### 3. 疑義の解決等

本特記仕様書及び設計図書に明示していない事項または、その内容に疑義が生じた場合は、監督職員と協議し決定すること。

##### 4. 仮設工

仮設工(任意)については、事前に設置方法を施工計画書にまとめ、監督職員へ提出すること。

なお、仮設方法については、正当な理由がある場合は、請負代金額の変更対象とする。

# 工事数量総括表

費目・工種明細など	規格1・規格2	単位	数量	備考
本工事費				
橋梁保全工事		式	1	レベル1
橋梁補修工		式	1	レベル2
橋梁地覆補修工		式	1	レベル3
高欄とりこわし	コンクリート支柱B・C	m3	1	レベル4
表面保護工		式	1	レベル3
下地処理	サンダーケレン	m2	239	レベル4
含浸材塗布工	固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材	m2	239	レベル4
現場塗装工		式	1	レベル2
橋梁塗装工		式	1	レベル3
素地調整		m2	4	レベル4
下塗	常温亜鉛めっき	m2	4	レベル4
上塗	常温亜鉛めっき	m2	4	レベル4
舗装工		式	1	レベル2
アスファルト舗装工		式	1	レベル3
表層(車道・路肩部)	再生密粒度As(20) 1層当り平均仕上厚50mm	m2	10	レベル4
橋梁付属物工		式	1	レベル2
目地部止水工		式	1	レベル3

# 工事数量総括表

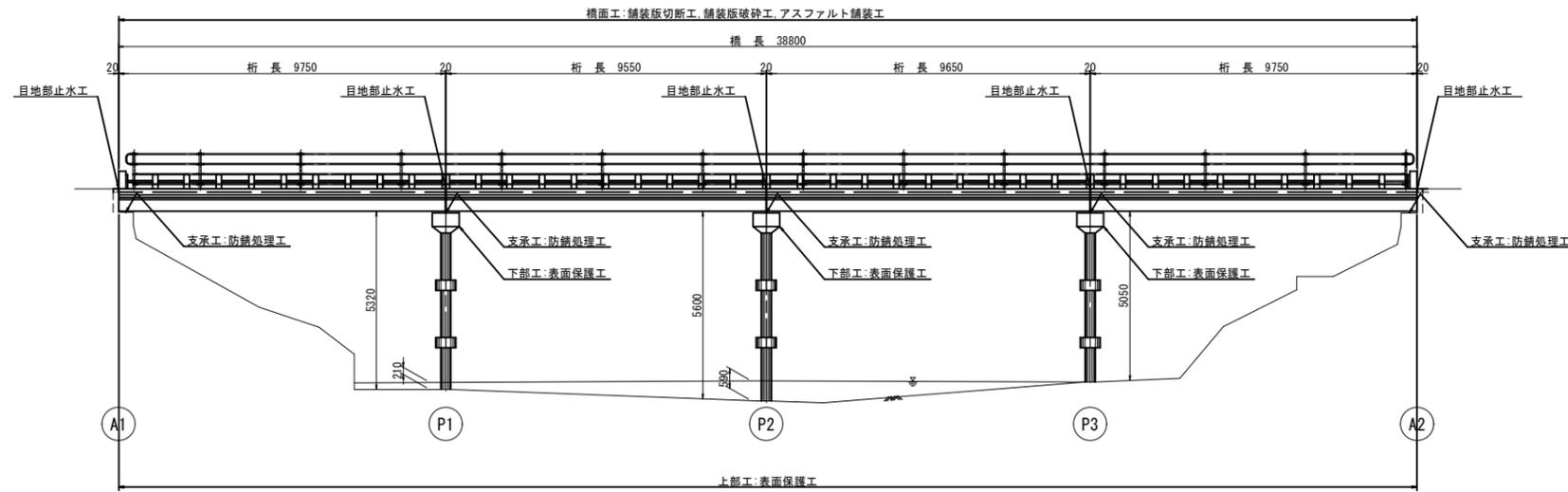
費目・工種明細など	規格1・規格2	単位	数量	備考
伸縮部補修工		m	13.6	レベル4
水切り工		式	1	レベル3
水切り工	EPDM系ゴム	m	77	レベル4
構造物撤去工		式	1	レベル2
構造物取壊し工		式	1	レベル3
舗装版切断	アスファルト舗装版 アスファルト舗装版厚15cm以下	式	1	レベル4
舗装版破砕	アスファルト舗装版	m2	10	レベル4
運搬処理工		式	1	レベル3
殻運搬	コンクリート殻（鉄筋）	m3	1	レベル4
殻運搬	アスファルト殻	m3	0.5	レベル4
殻処分	コンクリート殻（鉄筋）	t	2	レベル4
殻処分	アスファルト殻	t	1	レベル4
現場発生品運搬	スクラップ	式	1	レベル4
スクラップ処分費	スクラップ	t	0.2	レベル4
仮設工		式	1	レベル2
仮設足場工		式	1	レベル3
吊足場	安全ネット 板張防護 朝顔両側設置	式	1	レベル4
交通管理工		式	1	レベル3

# 工事数量総括表

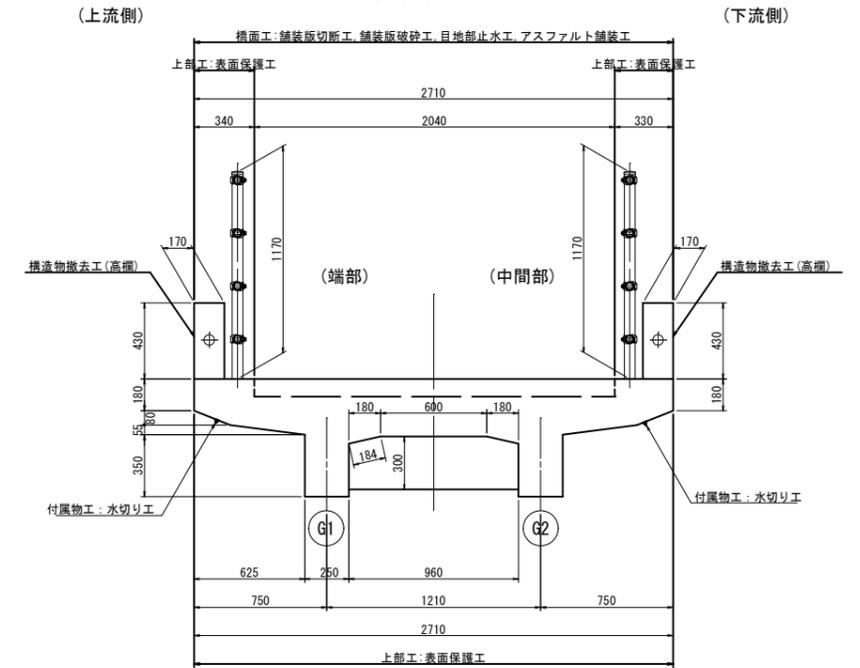
費目・工種明細など	規格1・規格2	単位		数量	備考
交通誘導警備員		人		8	レベル4
** 直接工事費 **					
共通仮設費率分					
** 共通仮設費計 **					
** 純工事費 **					
現場管理費					
** 工事原価 **					
一般管理費率分					
契約保証費					
一般管理費計					
** 工事価格 **					
** 消費税相当額 **					
** 工事費計 **					
** 契約保証費計 **					

# 菅田橋 補修計画一般図

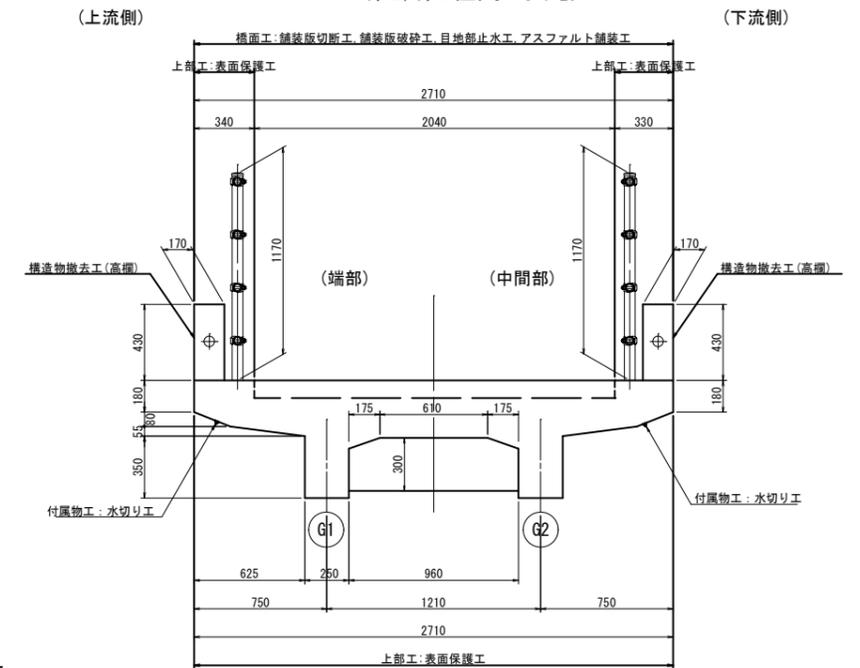
側面図 S=1:100



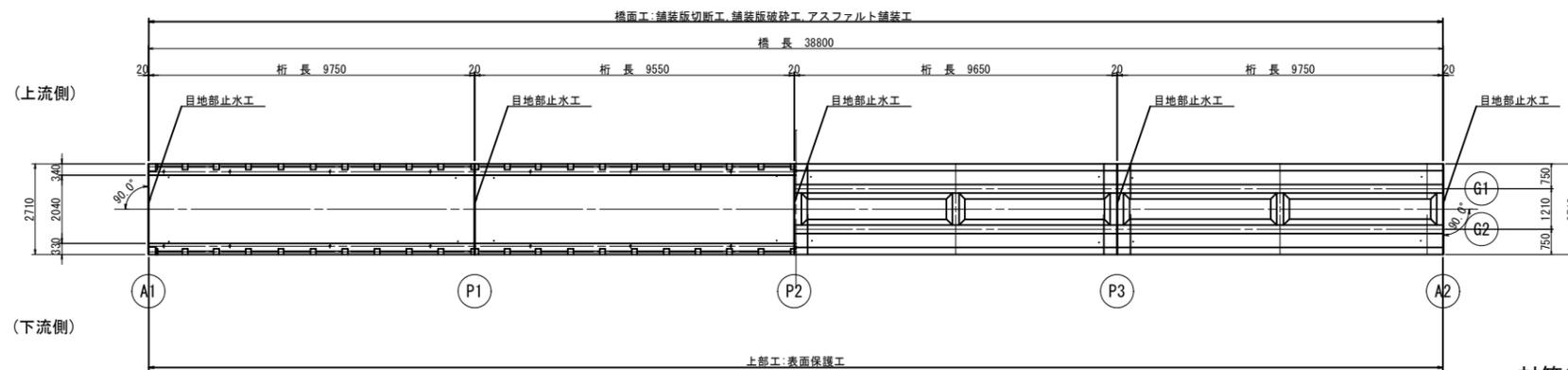
断面図 第1, 第4径間 S=1:20



断面図 第2, 第3径間 S=1:20



平面図 S=1:100



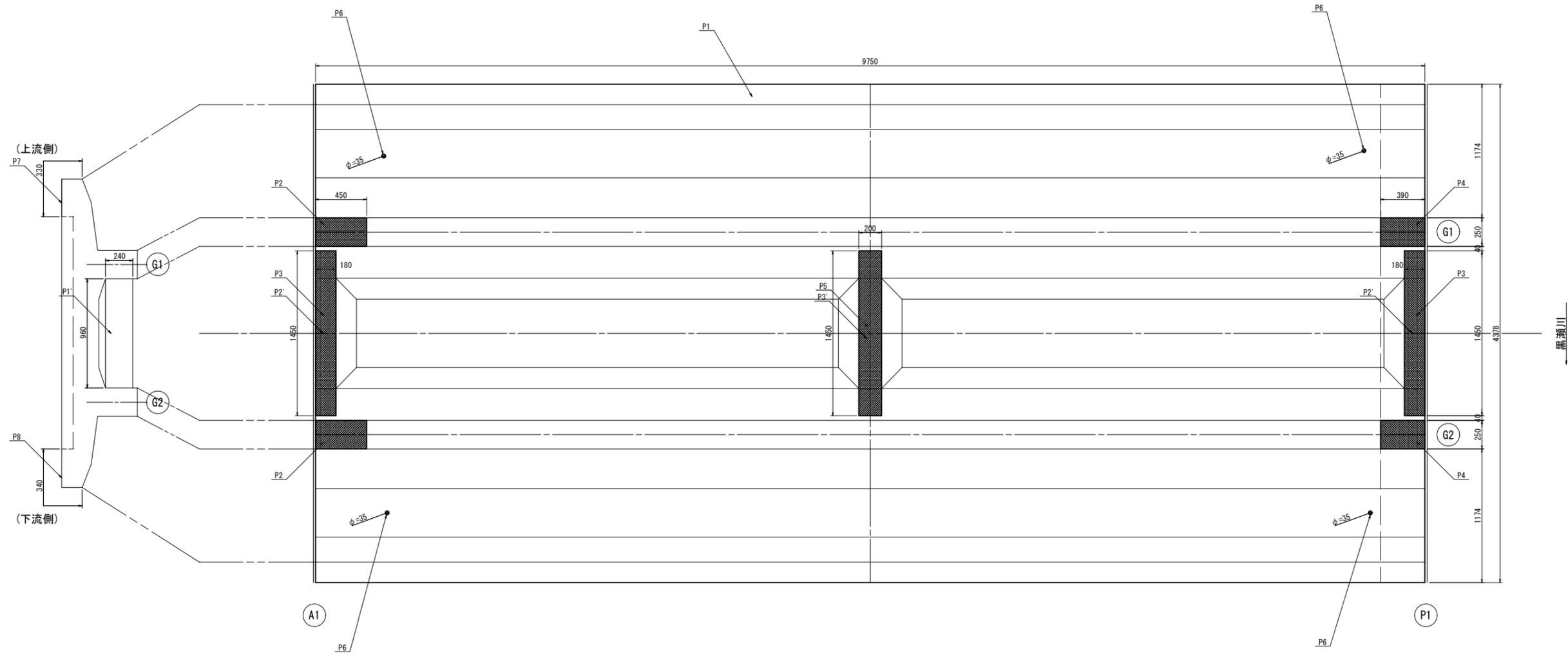
## 対策工法一覧表

- 表面保護工
- 防錆処理工
- 橋梁付属物工
- アスファルト舗装工
- 構造物撤去工
- 仮設足場工
- 吊足場
- 片側朝顔防護足場
- 橋脚回り足場

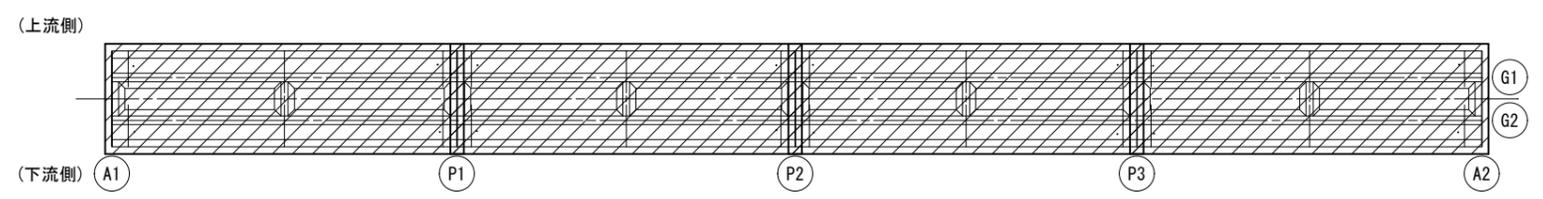
※ 本図面は、現地に簡易な計測を行い、作成したものである。  
 ※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。  
 ※ 土砂堆積、植生、鳥の巣、ふん害等がある場合は、撤去を行うこと。  
 ※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

工事名	菅田橋橋梁補修工事		
図面名	補修計画一般図		
縮尺	図示	図面番号	1 / 12
工事箇所	東広島市西条町御園宇		
事業者名	東広島市		

菅田橋 補修図(その1) S=1:20  
 第1径間(A1橋台~P1橋脚)  
 桁下面  
 表面保護工  
 平面展開図



(上流側) 位置図 S=1:100



凡例

P		表面保護工
		設置面
P0		補修工法 補修番号

- ※ 本図面は、現地での簡易な計測に基づき、作成したものである。
- ※ 形状・寸法については、施工時に再度確認を行うこと。
- ※ 表面保護材は固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材とする。
- ※ コンクリート表面のサンダーケレンは十分に行うこと。
- ※ サンダーケレンにより底設の剥落防止材を剥ぎ取り後は、損傷状況を確認すること。
- ※ 気温0℃以下では施工しないこと。
- ※ 標準塗布量：0.20kg/m<sup>2</sup>以上とすること。
- ※ 含浸材塗布後の洗浄は十分に行った後、表面を乾燥させること。
- ※ 材料は可使用時間内に使用し、可使用時間を過ぎたものについては使用しないこと。

工事名	菅田橋橋梁補修工事		
図面名	菅田橋 補修図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	2 / 12
工事箇所	東広島市西条町御園宇		
事業者名	東広島市		

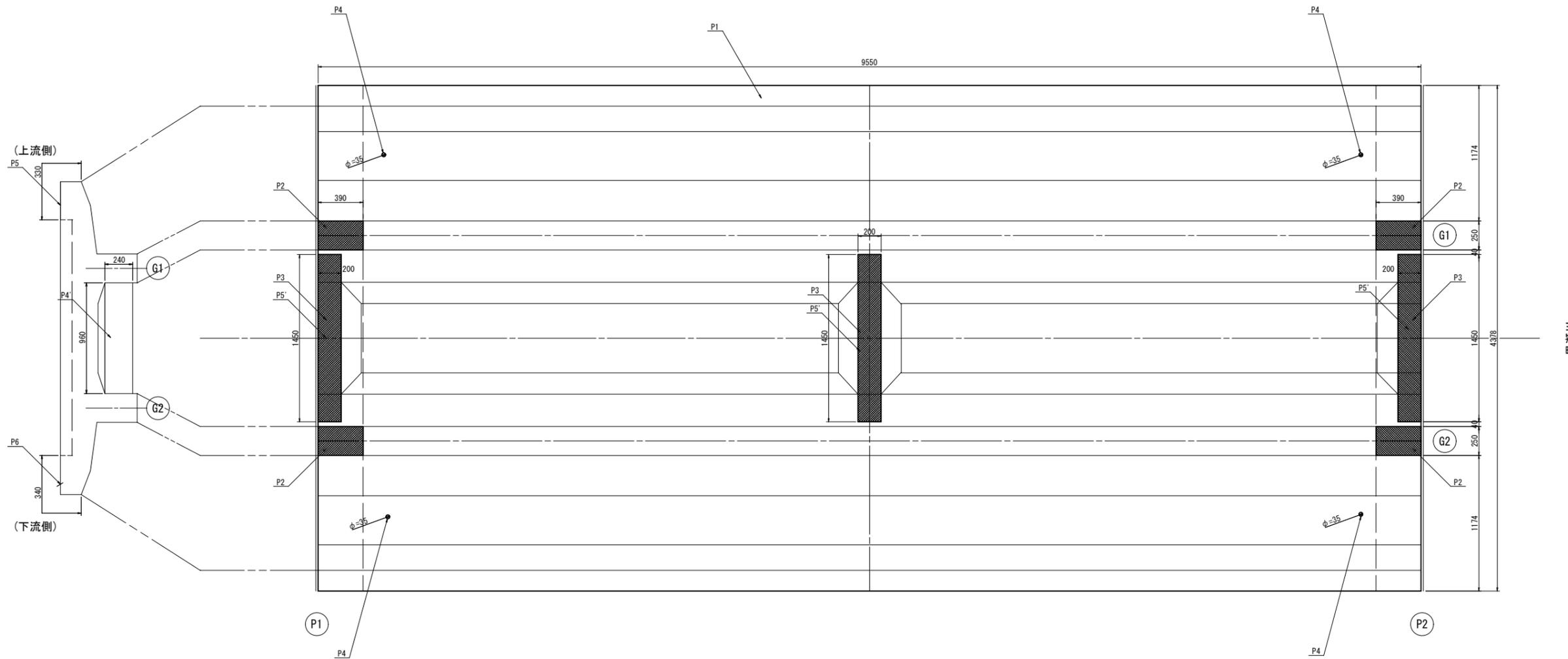
菅田橋 補修図(その2) S=1:20

第2径間 (P1橋脚～P2橋脚)

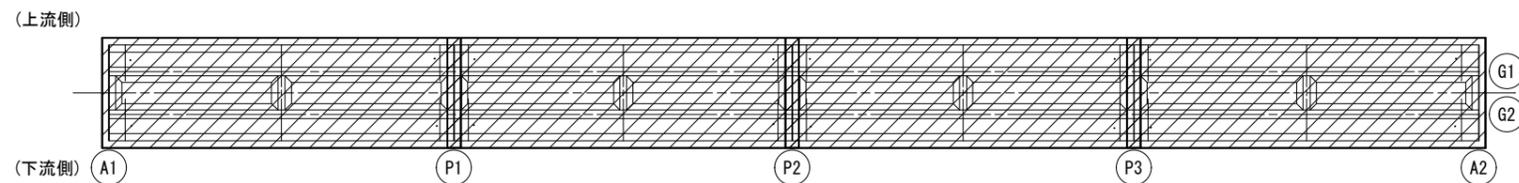
桁下面

表面保護工

平面展開図



位置図 S=1:100



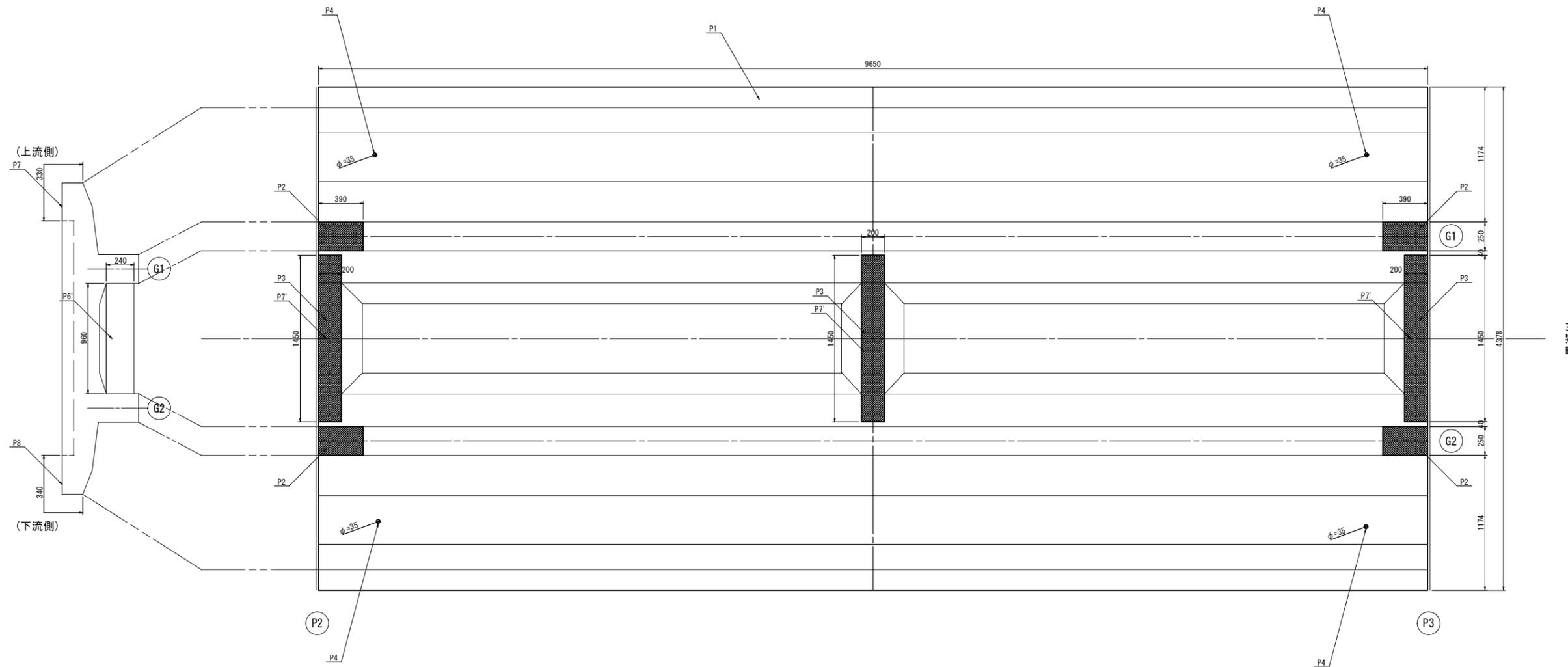
凡例

P		表面保護工
		設置面
P0		補修工法 補修番号

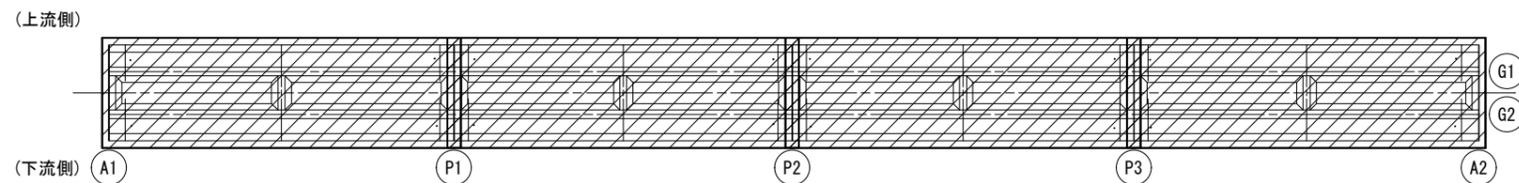
- ※ 本図面は、現地での簡易な計測に基づき、作成したものである。
- ※ 形状・寸法については、施工時に再度確認を行うこと。
- ※ 表面保護材は固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材とする。
- ※ コンクリート表面のサンダーケレンは十分に行うこと。
- ※ サンダーケレンにより底設の剥落防止材を剥ぎ取り後は、損傷状況を確認すること。
- ※ 気温0℃以下では施工しないこと。
- ※ 標準塗布量：0.20kg/m<sup>2</sup>以上とすること。
- ※ 含浸材塗布後の洗浄は十分に行った後、表面を乾燥させること。
- ※ 材料は可使用時間内に使用し、可使用時間を過ぎたものについては使用しないこと。

工事名	菅田橋橋梁補修工事		
図面名	菅田橋 補修図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	3 / 12
工事箇所	東広島市西条町御園宇		
事業者名	東広島市		

菅田橋 補修図(その3) S=1:20  
 第3径間 (P2橋脚~P3橋脚)  
 桁下面  
 表面保護工  
 平面展開図



位置図 S=1:100



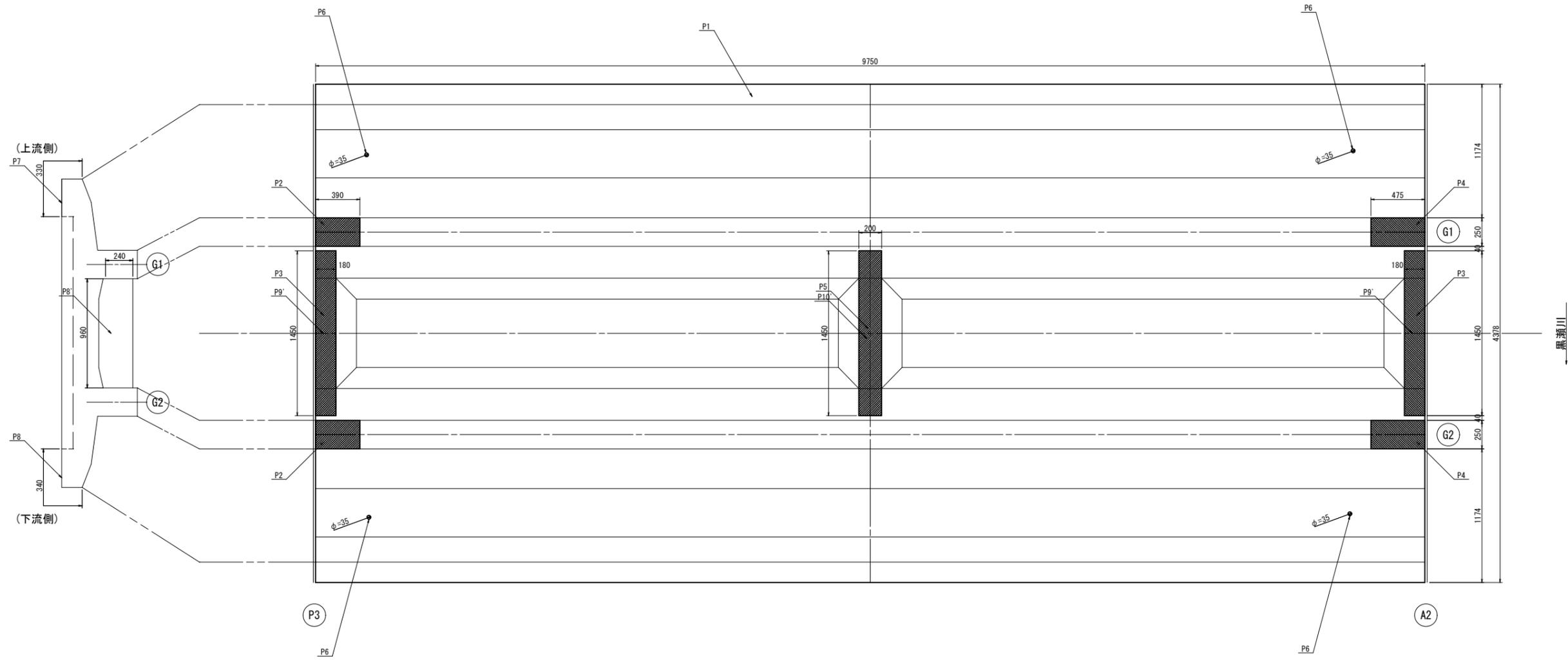
凡例

P		表面保護工
		設置面
P0		補修工法 補修番号

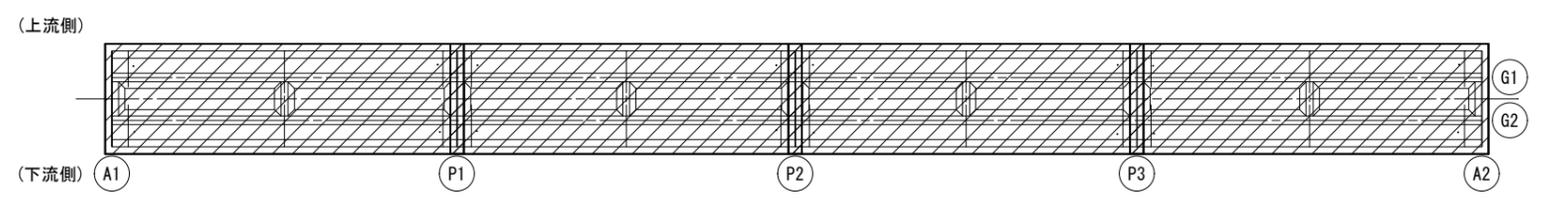
- ※ 本図面は、現地での簡易な計測に基づき、作成したものである。
- ※ 形状・寸法については、施工時に再度確認を行うこと。
- ※ 表面保護材は固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材とする。
- ※ コンクリート表面のサンダーケレンは十分に行うこと。
- ※ サンダーケレンにより底設の剥落防止材を剥ぎ取り後は、損傷状況を確認すること。
- ※ 気温0℃以下では施工しないこと。
- ※ 標準塗布量：0.20kg/m<sup>2</sup>以上とすること。
- ※ 含浸材塗布後の洗浄は十分に行った後、表面を乾燥させること。
- ※ 材料は可使用時間内に使用し、可使用時間を過ぎたものについては使用しないこと。

工事名	菅田橋橋梁補修工事		
図面名	菅田橋 補修図(その3)		
縮尺	図示	図面番号	4 / 12
工事箇所	東広島市西条町御園宇		
事業者名	東広島市		

菅田橋 補修図(その4) S=1:20  
 第4径間 (P3橋脚～A2橋台)  
 桁下面  
 表面保護工  
 平面展開図



位置図 S=1:100



凡例

P		表面保護工
		設置面
P0		補修工法 補修番号

- ※ 本図面は、現地での簡易な計測に基づき、作成したものである。
- ※ 形状・寸法については、施工時に再度確認を行うこと。
- ※ 表面保護材は固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材とする。
- ※ コンクリート表面のサンダーケレンは十分に行うこと。
- ※ サンダーケレンにより底設の剥落防止材を剥ぎ取り後は、損傷状況を確認すること。
- ※ 気温0℃以下では施工しないこと。
- ※ 標準塗布量：0.20kg/m<sup>2</sup>以上とすること。
- ※ 含浸材塗布後の洗浄は十分に行った後、表面を乾燥させること。
- ※ 材料は可使用時間内に使用し、可使用時間を過ぎたものについては使用しないこと。

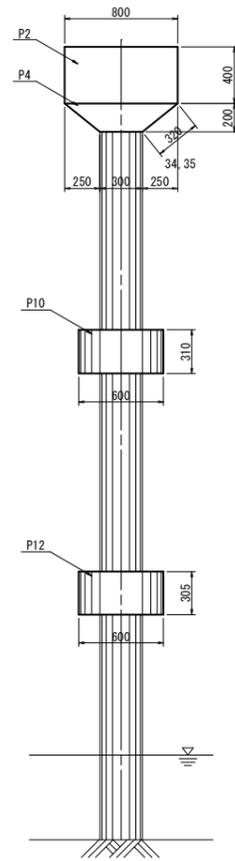
工事名	菅田橋橋梁補修工事		
図面名	菅田橋 補修図(その4)		
縮尺	図示	図面番号	5 / 12
工事箇所	東広島市西条町御園宇		
事業者名	東広島市		



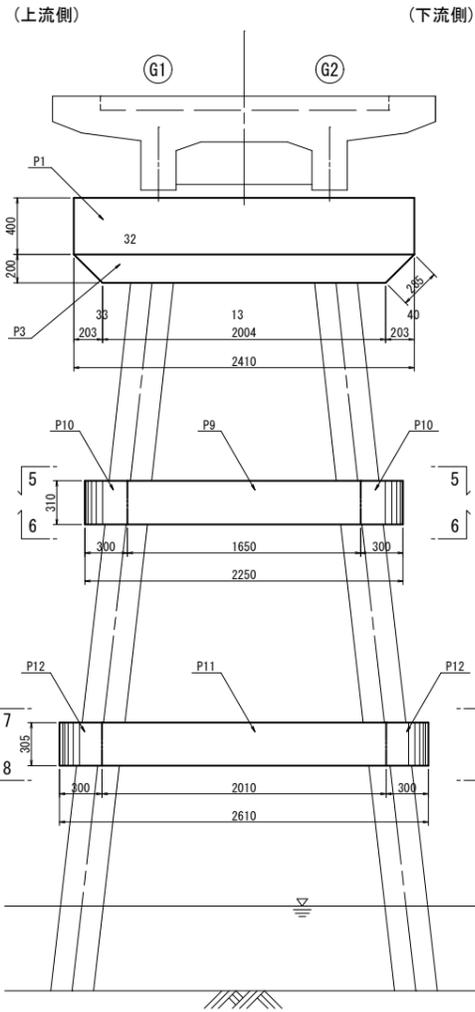
P2橋脚

表面保護工

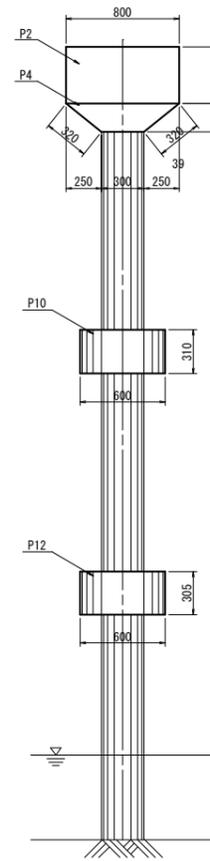
上流側側面図



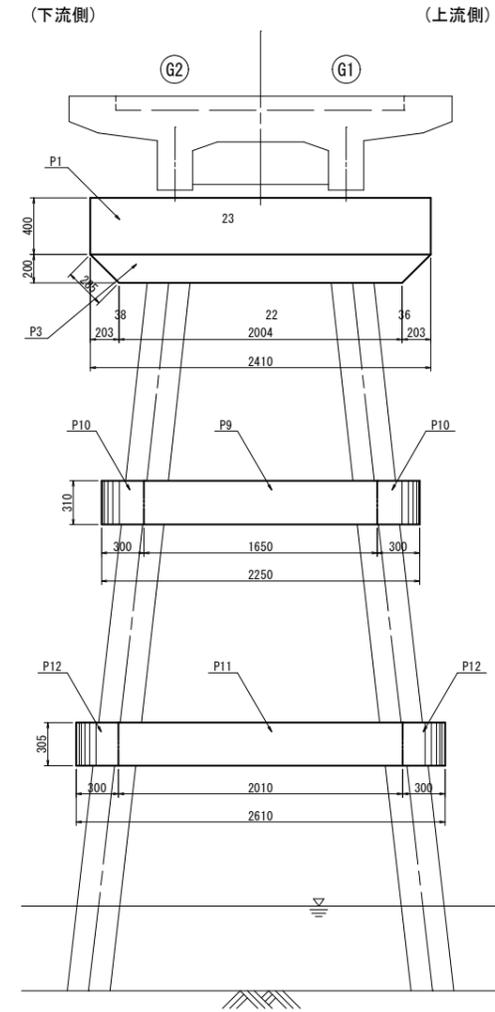
起点側正面図



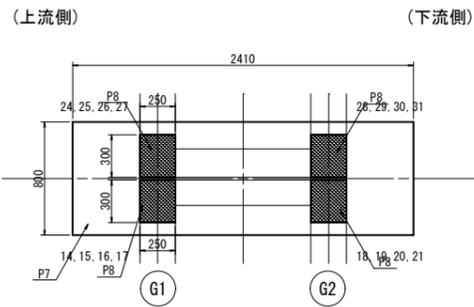
下流側側面図



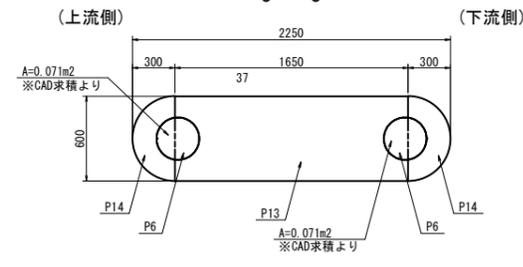
終点側正面図



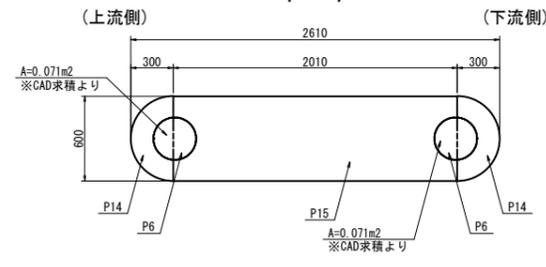
橋座平面図



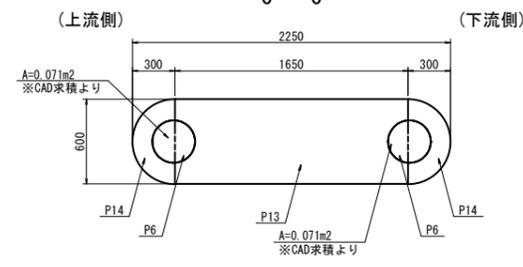
平面図 5-5



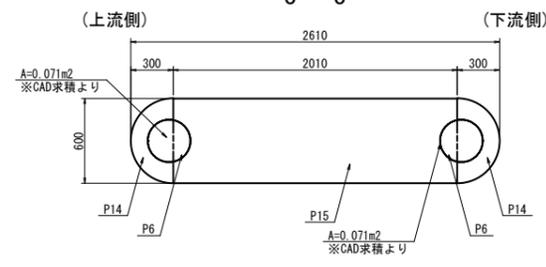
平面図 7-7



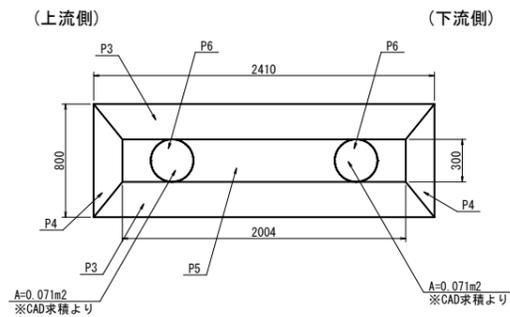
平面図 6-6



平面図 8-8



梁下平面図



凡例

P		表面保護工
		設置面
P0		補修工法 補修番号

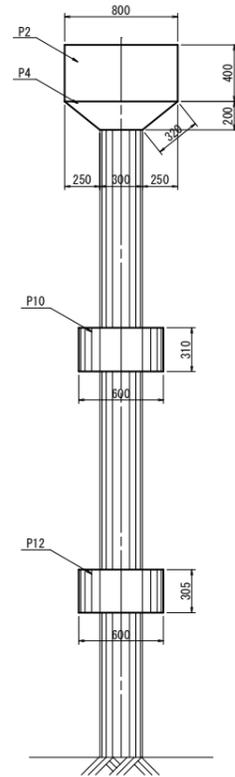
- ※ 本図面は、現地での簡易な計測に基づき、作成したものである。
- ※ 形状・寸法については、施工時に再度確認を行うこと。
- ※ 表面保護材は固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材とする。
- ※ コンクリート表面のサンダーケレンは十分に行うこと。
- ※ サンダーケレンにより既設の剥落防止材を剥ぎ取り後は、損傷状況を確認すること。
- ※ 気温0℃以下では施工しないこと。
- ※ 標準塗布量：0.20kg/m<sup>2</sup>以上とすること。
- ※ 含浸材塗布後の洗浄は十分に行った後、表面を乾燥させること。
- ※ 材料は可使時間内に使用し、可使時間を過ぎたものについては使用しないこと。

工事名	菅田橋橋梁補修工事		
図面名	菅田橋 補修図(その6)		
縮尺	図示	図面番号	7 / 12
工事箇所	東広島市西条町御園宇		
事業者名	東広島市		

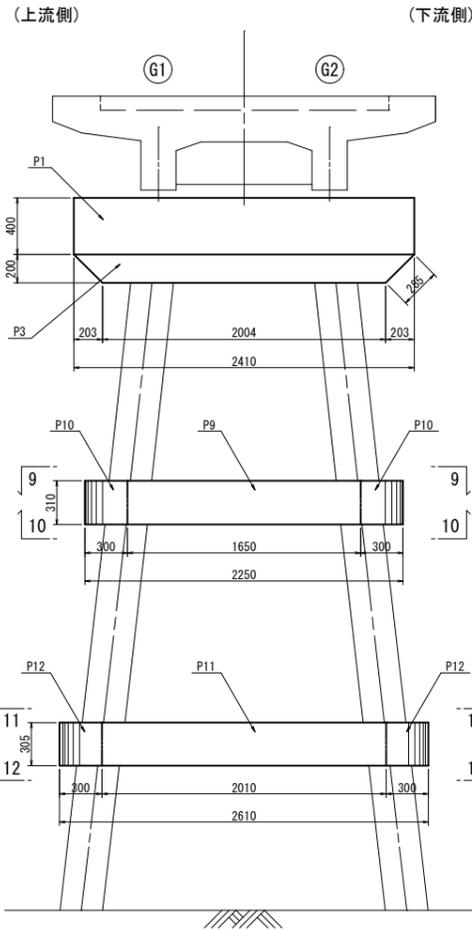
P3橋脚

表面保護工

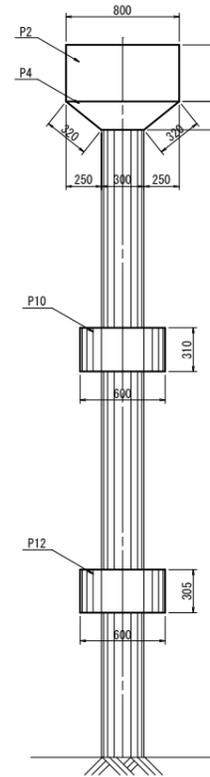
上流側側面図



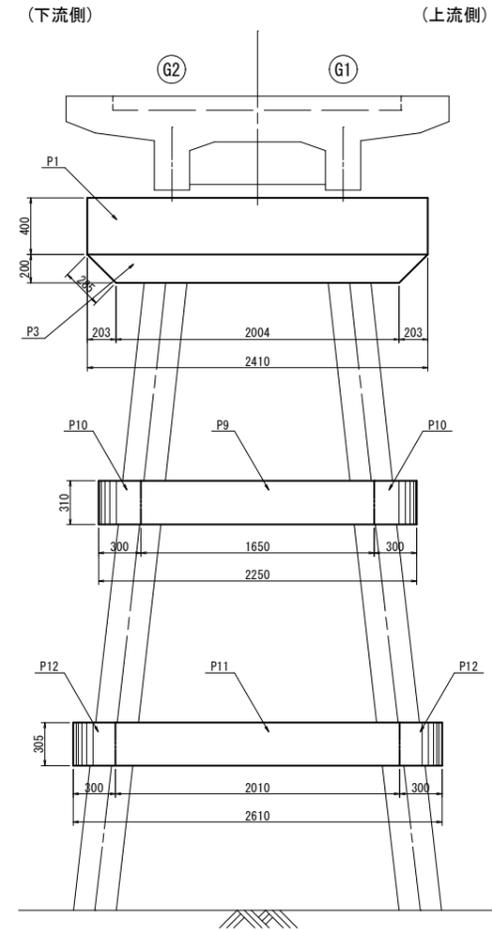
起点側正面図



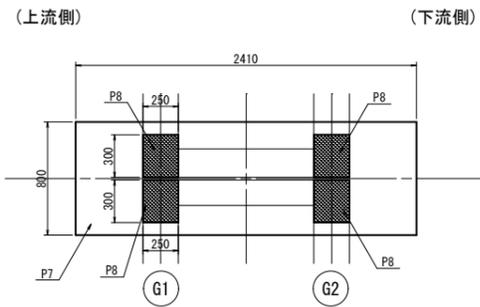
下流側側面図



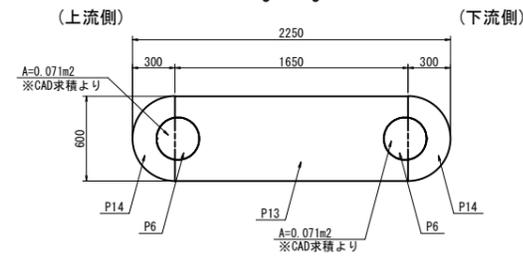
終点側正面図



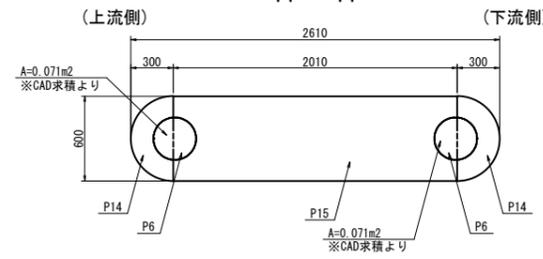
橋座平面図



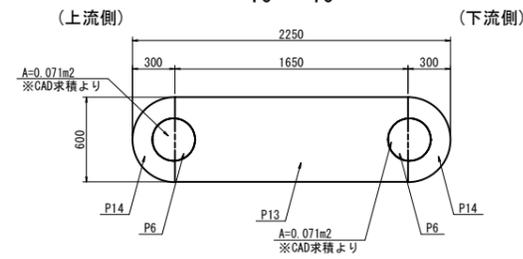
平面図 9-9



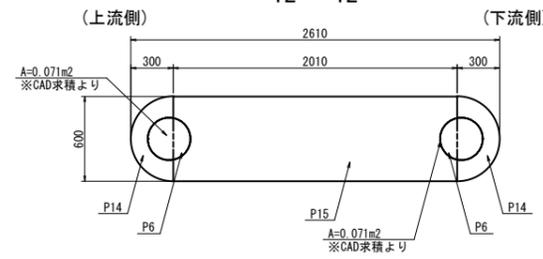
平面図 11-11



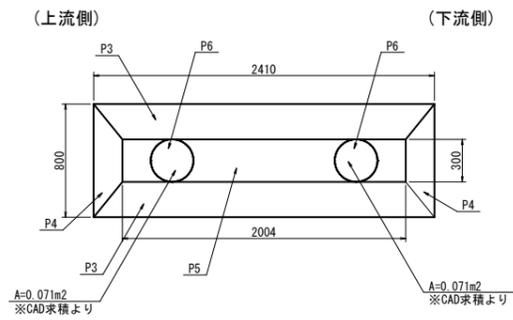
平面図 10-10



平面図 12-12



梁下平面図



凡例

P		表面保護工
		設置面
P0		補修工法 補修番号

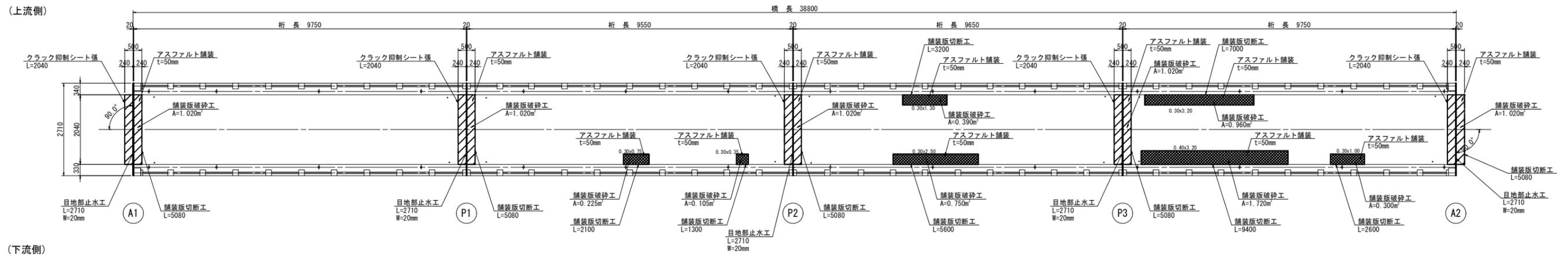
- ※ 本図面は、現地での簡易な計測に基づき、作成したものである。
- ※ 形状・寸法については、施工時に再度確認を行うこと。
- ※ 表面保護材は固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材とする。
- ※ コンクリート表面のサンダーケレンは十分に行うこと。
- ※ サンダーケレンにより既設の剥落防止材を剥ぎ取り後は、損傷状況を確認すること。
- ※ 気温0℃以下では施工しないこと。
- ※ 標準塗布量：0.20kg/m<sup>2</sup>以上とすること。
- ※ 含浸材塗布後の洗浄は十分に行った後、表面を乾燥させること。
- ※ 材料は可使用時間内に使用し、可使用時間を過ぎたものについては使用しないこと。

工事名	菅田橋橋梁補修工事		
図面名	菅田橋 補修図(その7)		
縮尺	図示	図面番号	8 / 12
工事箇所	東広島市西条町御園宇		
事業者名	東広島市		

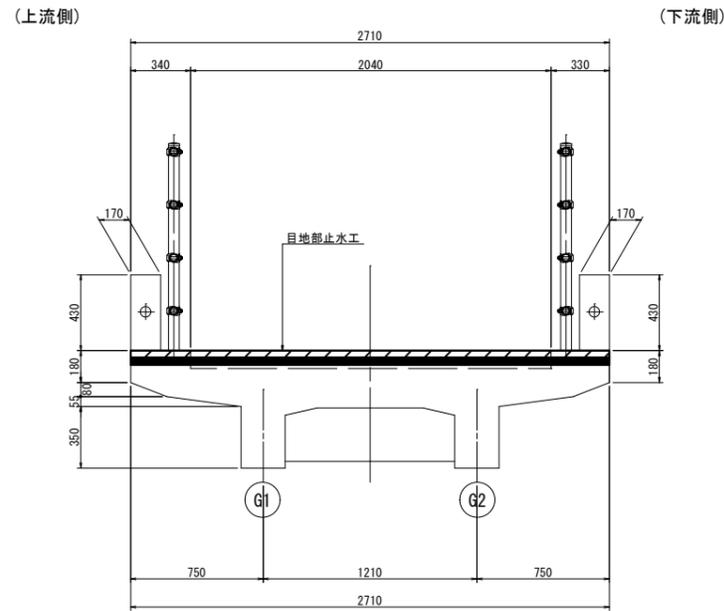
# 菅田橋 補修図(その8)

舗装版切断工, 舗装版破砕工, 目地部止水工, アスファルト舗装工

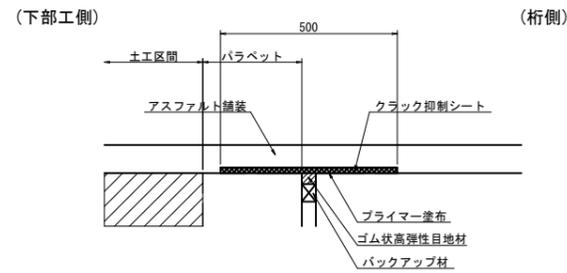
平面図 S=1:60



断面図 S=1:20

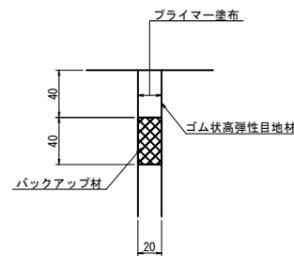


クラック防止シート張詳細図 S=1:10



※ コンクリート部を平らに仕上げ、レイタンス、水分の除去を十分に行うこと。  
 ※ プライムコートの養生は十分に乾燥するまで行うこと。  
 ※ シートは、はらみや波打ちが生じないように敷設すること。  
 ※ クラック抑制シート端部の処理は、はがれ等が発生しないよう入念に行うこと。  
 ※ 敷設後はできるだけ早い時期に舗装を行うこと。

伸縮部詳細図 S=1:3



舗装版切断・破砕工数量表 (1橋当り)

名称	規格	単位	数量	備考
舗装版切断工	t=5cm (想定)	m	56.600	アスファルト舗装(車道部)
舗装版破砕工	t=5cm (想定)	m <sup>2</sup>	9.550	アスファルト舗装(車道部)
搬運機	舗装版破砕	m <sup>2</sup>	0.478	
敷処分	がれき類	m <sup>2</sup>	0.478	

アスファルト舗装工数量表 (1橋当り)

名称	規格	単位	数量	備考
表層(車道・路肩部)	再生密粒度(20) t=5cm タックコート	m <sup>2</sup>	9.550	2.04m(1車線当り1.02m)

目地部止水工数量表 (1橋当り)

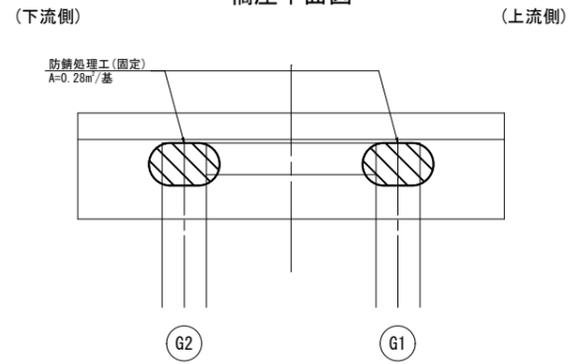
名称	規格	単位	数量	備考
下地処理		m	13.550	
目地材充填	ゴム状高弾性目地材 20×40mm	m	13.550	
バックアップ材	ウレタンフォーム 20×40mm	L	10.840	
クラック抑制シート	ガラス基材 b=50cm	m	10.200	
クラック防止シート張	クラック防止シート	m	10.200	

※ 本図面は、現地にて簡易な計測を行い、作成したものである。  
 ※ 部材寸法は、施工前に現地に再確認のうえ、決定のこと。  
 ※ 土砂堆積、植生、鳥の巣、ふん害等がある場合は、撤去を行うこと。  
 ※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。  
 ※ 舗装版取壊しを行う際は、床版等を破損しないよう注意すること。

工事名	菅田橋橋梁補修工事		
図面名	菅田橋 補修図(その8)		
縮尺	図示	図面番号	9 / 12
工事箇所	東広島市西条町御園宇		
事業者名	東広島市		

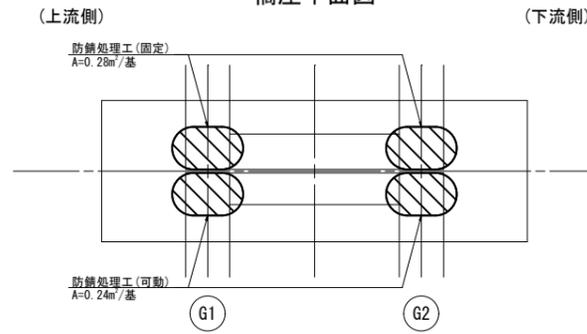
A1橋台

橋座平面図



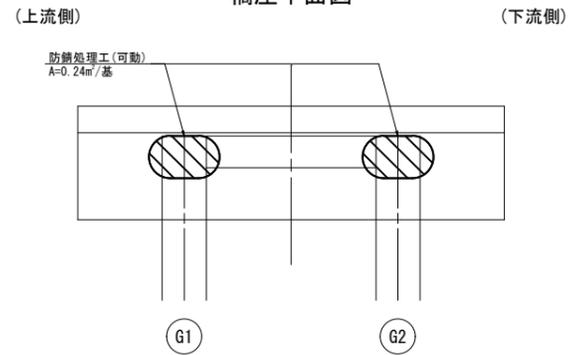
P1橋脚

橋座平面図



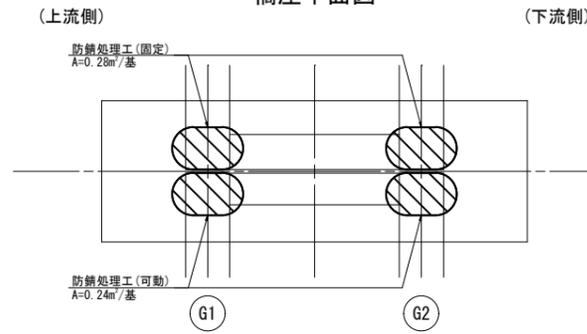
A2橋台

橋座平面図



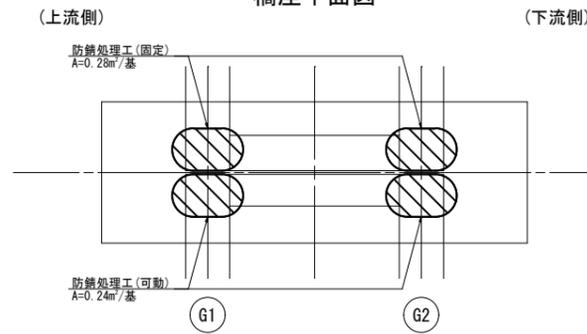
P2橋脚

橋座平面図

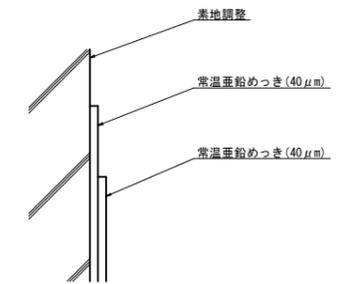


P3橋脚

橋座平面図



防錆処理工  
(参考図)

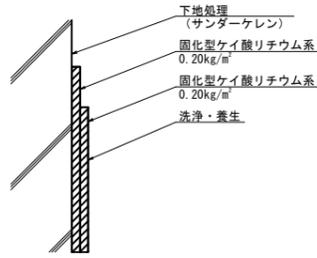


- ※ 本図面は、現地にて簡易な計測を行い、作成したものである。
- ※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。
- ※ 土砂堆積、植生、鳥の巣、ふん害等がある場合は、撤去を行うこと。
- ※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

工事名	菅田橋橋梁補修工事		
図面名	菅田橋 補修図(その9)		
縮尺	図示	図面番号	10/12
工事箇所	東広島市西条町御園宇		
事業者名	東広島市		

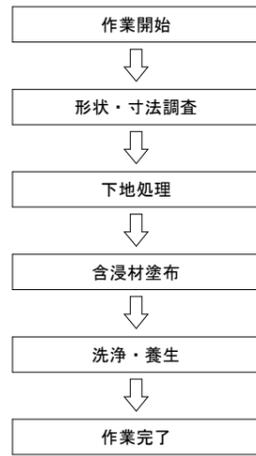
# 菅田橋 補修詳細図(参考図)

## 表面保護工 (参考図)

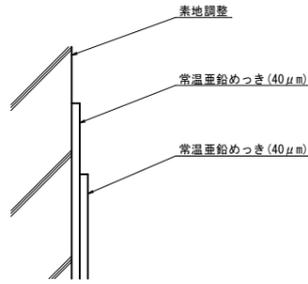


- ※ 表面保護材は固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材とする。
- ※ コンクリート表面のサンダーケレンは十分に行うこと。
- ※ 気温0℃以下では施工しないこと。
- ※ 標準塗布量：0.20kg/m<sup>2</sup>以上とすること。
- ※ 含浸材塗布後の洗浄は十分に行った後、表面を乾燥させること。
- ※ 材料は可使用時間内に使用し、可使用時間を過ぎたものについては使用しないこと。

## 施工手順

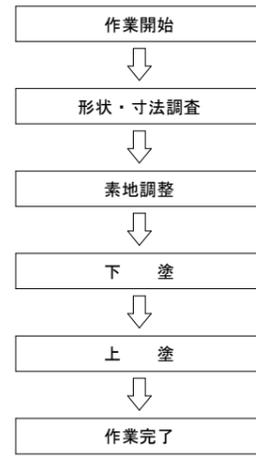


## 防錆処理工 (参考図)

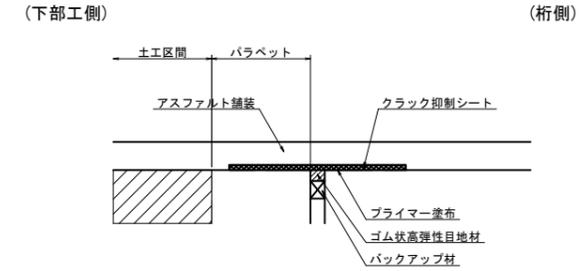


- ※ 素地調整の種別は2種ケレンを想定。
- ※ 十分な接着効果を得るために、施工対象となる鋼材面の不純物(油、ゴミ等)を十分に除去すること。
- ※ 塗装面のケレンは十分に行うこと。
- ※ 気温5℃以下、湿度85RH%以上では施工しないこと。
- ※ 合計膜厚は80μm以上とすること。
- ※ 施工後の材料が乾燥するまで、塗布面が濡れないこと。
- ※ 材料は可使用時間内に塗布を行い、可使用時間を過ぎたものについては使用しないこと。

## 施工手順

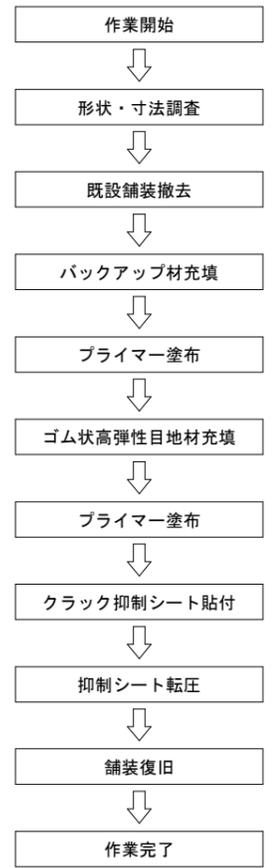


## 目地部止水工(クラック抑制シート) (参考図)

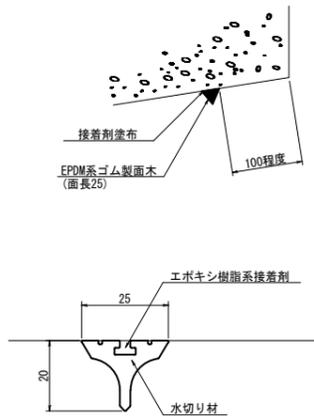


- ※ 施工箇所の清掃を十分に行うこと。
- ※ 充填材は可使用時間内に注入を行い、可使用時間を過ぎた材料については使用しないこと。
- ※ 充填後は、指触乾を確認後に交通開放を行うこと。
- ※ 床版上面とパラペット天端の高さが異なる場合は、コンクリート等にて高さ調整を行うこと。
- ※ コンクリート部を平らに仕上げ、レイタンス、水分の除去を十分に行うこと。
- ※ プライムコートは十分に乾燥するまで行うこと。
- ※ シートは、はらみや波打ちが生じないように敷設すること。
- ※ クラック抑制シート端部の処理は、はがれ等が発生しないよう入念に行うこと。
- ※ 敷設後はできるだけ早い時期に舗装を行うこと。

## 施工手順

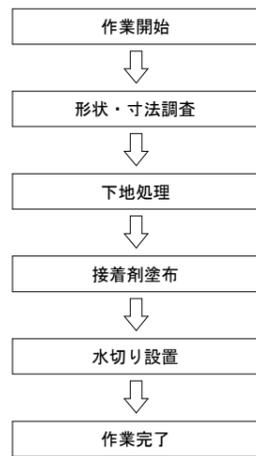


## 水切り工 (参考図)

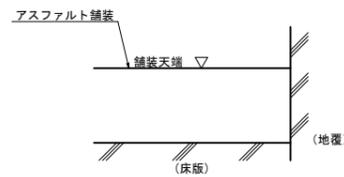


- ※ 水切り設置面のコンクリートは、不陸のないよう調整を行うこと。

## 施工手順

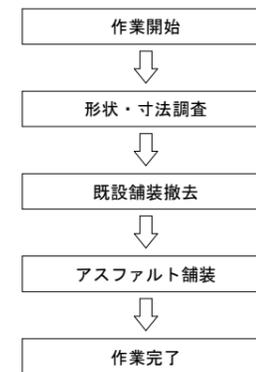


## アスファルト舗装工 (参考図)

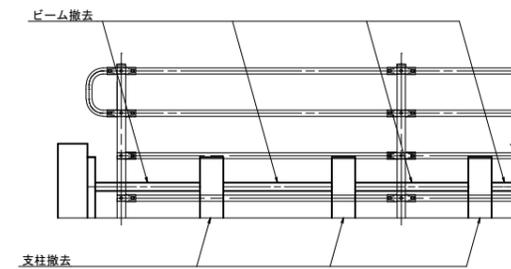


- ※ 土砂堆積、植生等がある場合は、撤去を行うこと。
- ※ 舗装版取壊しを行う際は、床版等を破損しないよう注意すること。

## 施工手順

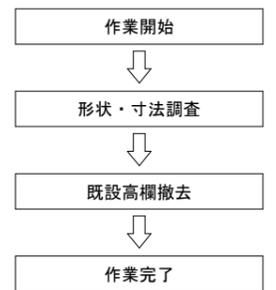


## 高欄撤去工 (参考図)



- ※ 土砂堆積、植生、鳥の巣、ふん害等がある場合は、撤去を行うこと。
- ※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

## 施工手順

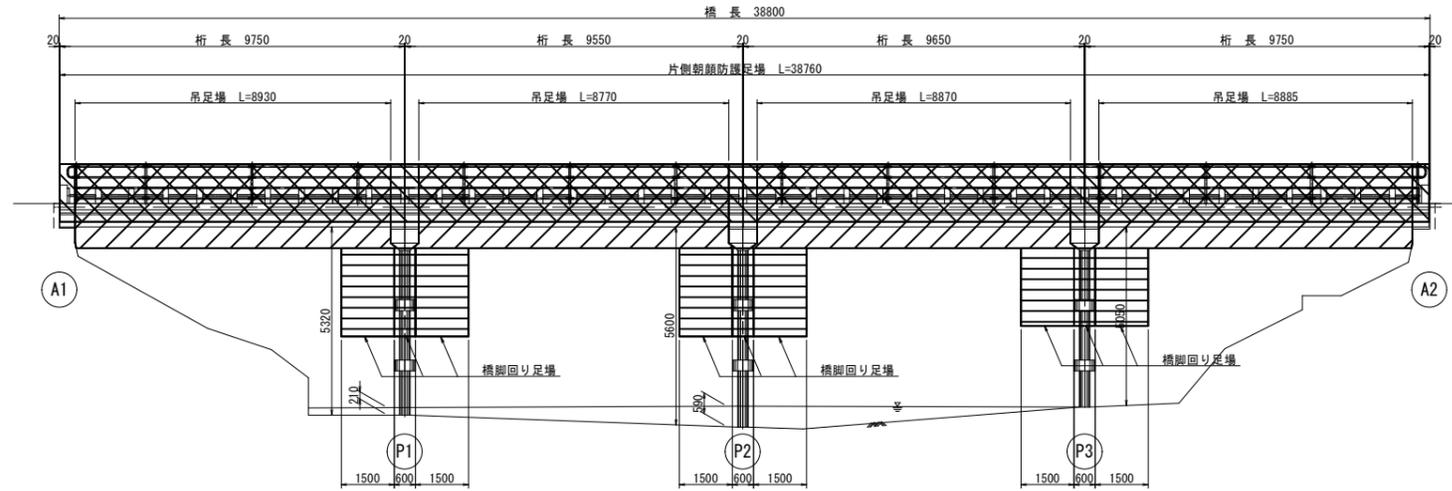


工事名	菅田橋橋梁補修工事		
図面名	菅田橋 補修図(参考図)		
縮尺	図示	図面番号	11 / 12
工事箇所	東広島市西条町御園宇		
事業者名	東広島市		

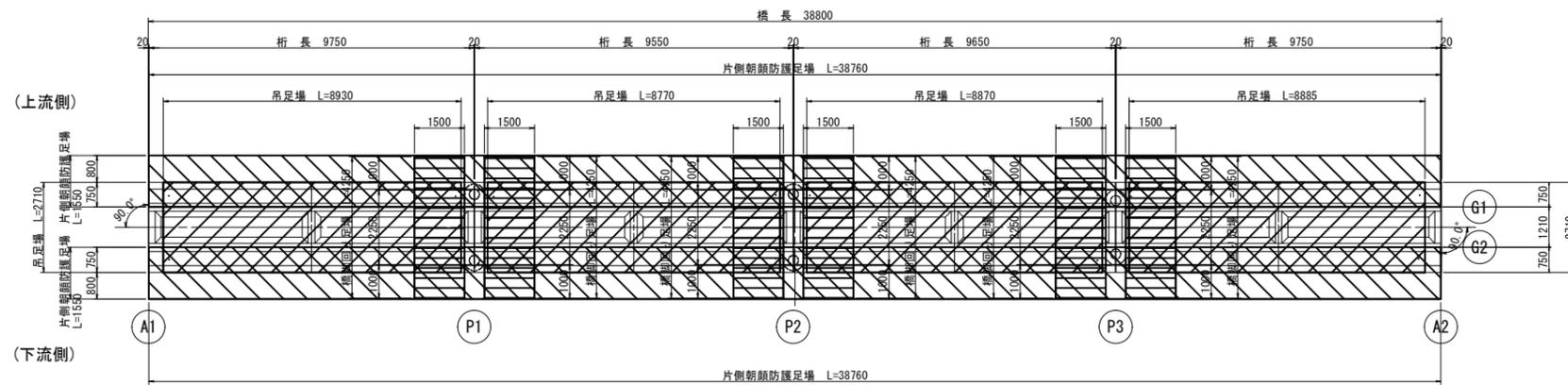
# 菅田橋 仮設図(参考図)

## 仮設足場図

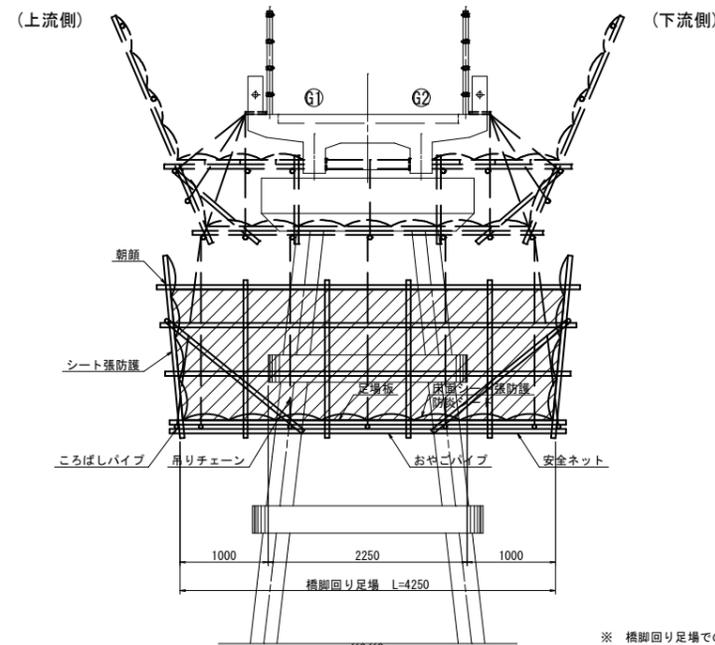
側面図 S=1:100



平面図 S=1:100

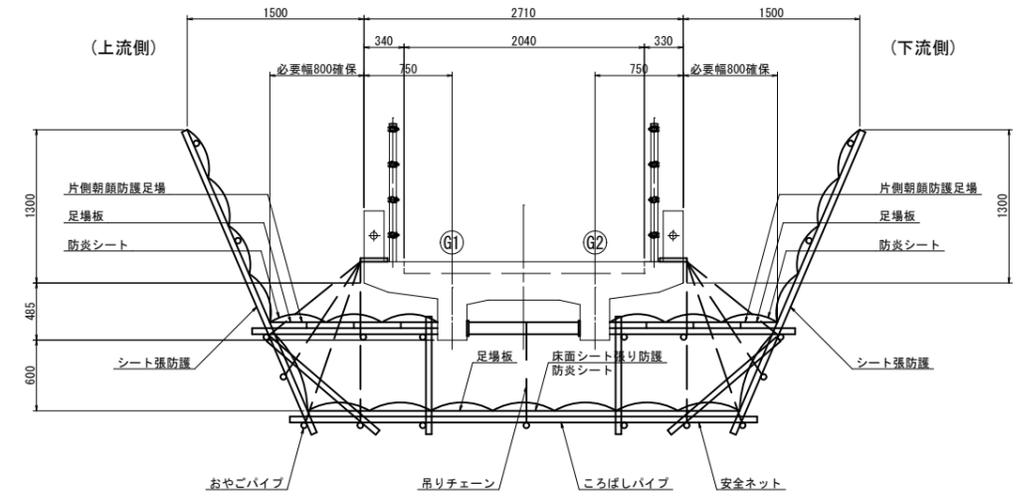


橋脚部(起点側)



※ 橋脚回り足場での施工の際は、足場設置高さを調整して順次施工すること。  
 ※ 破線は次期施工で使用する足場を示す。

断面図 S=1:30



### 凡例

	吊足場(タイプA1) 床面シート張防護
	片側朝顔防護足場(タイプE) (シート張防護 両側施工)
	橋脚回り足場(タイプF) 床面にシート張防護を追加(タイプF) 手摺を朝顔に変更(タイプF) 朝顔にシート張防護を追加(タイプF)

※ 本図面は、現地にて簡易な計測を行い、作成したものである。  
 ※ 部材寸法は、施工前に現地を再確認のうえ、決定のこと。  
 ※ 土砂堆積、植生、鳥の巣、ふん害等がある場合は、撤去を行うこと。  
 ※ 取付金具やボルト等にゆるみ・脱落がある場合は、復旧を行うこと。

工事名	菅田橋橋梁補修工事		
図面名	菅田橋 仮設図(参考図)		
縮尺	図示	図面番号	12/12
工事箇所	東広島市西条町御園宇		
事業者名	東広島市		

## 参 考 図 書

工事名称 : 令和7年度 橋梁長期保全事業  
菅田橋橋梁補修工事

### <注意事項>

- 1 本工事は、数量公開の対象工事です。
- 2 この数量書は適正な積算のための参考指標として数量を示すものです。  
数量は参考数量であり、設計図書ではありません。内容の如何にかかわらず、契約上の拘束を  
するものではありません。
- 3 その他
  - ・当該工事により発生する Co 殻、As 殻は、広島県制定の再資源化施設一覧表に掲載されている施  
設に搬出するものとする。搬出先として、次の施設を見込んでいる。

種 別	施設の名称	所在地	運搬距離
Co 殻 (鉄筋)	シンクファーム株式会 社田万里コンクリート リサイクル施設	竹原市田万里字西小寺 11357	7.8km
As 殻	有限会社トラス	東広島市西条町上三永 348-14	7.0km

# 総括情報表

変更回数 適用単価地区 単価適用日  諸経費体系	0 44 東広島市 00-07.06.01(0)  1 公共(一般)	凡例 Co ……コンクリート      As ……アスファルト DT ……ダンプトラック      BH ……バックホウ CC ……クローラクレーン      TC ……トラッククレーン RTC…ラフテレーンクレーン
	当世代 41 橋梁保全工事 04 一般交通影響有り(2) 復興補正区分 00 補正なし 週休補正区分 09 閉所型・月単位 現場事務所等の貸与区分 00 補正なし ICT補正区分 00 補正なし 冬期補正係数 00 補正なし 緊急工事区分 00 通常工事 0% 前払金支出割合区分 00 補正無し 契約保証区分 01 金銭的保証(0.04%)	前世代
建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額，労務管理費，安全訓練等に要する費用等）が必要であり，本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。		

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費					X1000
橋梁保全工事					Y1G03 レベル1
橋梁補修工	1	式			Y1G0324 レベル2
橋梁地覆補修工	1	式			Y1G032401 レベル3
高欄とりこわし コンクリート支柱B・C	1	式			Y1G03240101 レベル4
とりこわし	1	m3			SPK24040333 00
表面保護工	1	m3			単第0 -0001 表 Y1G032406 レベル3
下地処理 サンダーケレン	239	m2			Y1G03240601 レベル4
下地処理工 サンダーケレン	239	m2			F000000110 00

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
含浸材塗布工 固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材	239	m2			Y4999 レベル4
表面含浸工 固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材 RCガードCE TYPE-Li相当品	239	m2			V0000000001 00 単第0 -0002 表
現場塗装工					Y1G0325 レベル2
橋梁塗装工	1	式			Y1G032501 レベル3
素地調整	1	式			
素地調整工（小規模塗装工）	4	m2			Y1G03250101 レベル4
	4	m2			V0000000005 00 単第0 -0003 表
下塗 常温亜鉛めっき	4	m2			Y1G03250102 レベル4
下塗り（小規模塗装工） 常温亜鉛めっき 高濃度亜鉛末塗料	4	m2			V0000000006 00 単第0 -0004 表
上塗 常温亜鉛めっき	4	m2			Y1G03250104 レベル4

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
上塗り(小規模塗装工) 常温亜鉛めっき 高濃度亜鉛末塗料	4	m2			V0000000007 00 単第0 -0005 表
舗装工	1	式			Y1A0418 レベル2
アスファルト舗装工	1	式			Y1A011106 レベル3
表層(車道・路肩部) 再生密粒度As(20) 1層当り平均仕上厚50mm	10	m2			Y1A01110609 レベル4
表層(車道・路肩部) 平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下) 1層当り平均仕上厚50mm	10	m2			SPK24040241 00 単第0 -0006 表
橋梁付属物工	1	式			Y1G0321 レベル2
目地部止水工	1	式			Y1G032101 レベル3
伸縮部補修工	13.6	m			Y4999 レベル4
伸縮目地再設置工 シール材及びバックアップ材	13.6	m			V0000000003 00 単第0 -0007 表

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
舗装用クラック防止材 幅50cm×長15m 引張強度110kN/m	10.2	m			T2130003 00
水切り工	1	式			Y3999 レベル3
水切り工 EPDM系ゴム	77	m			Y4999 レベル4
水切り工 EPDM系ゴム	77	m			V0000000004 00 単第0 -0008 表
構造物撤去工	1	式			Y1G0327 レベル2
構造物取壊し工	1	式			Y1G032706 レベル3
舗装版切断 アスファルト舗装版 アスファルト舗装版厚15cm以下	57	m			Y1G03270602 レベル4
舗装版切断 アスファルト舗装版 アスファルト舗装版厚15cm以下	57	m			SPK24040306 00 単第0 -0009 表
舗装版破碎 アスファルト舗装版	10	m2			Y1G03270603 レベル4

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
舗装版破碎積込(小規模土工)					SPK24040018 00
	10	m2			単第0 -0010 表
運搬処理工					Y1G032716 レベル3
	1	式			
殻運搬 コンクリート殻(鉄筋)					Y1G03271601 レベル4
	1	m3			
殻運搬 吹付法面とりこわし(モルタル) DID区間無し 運搬距離8.5km以下(7.0km超)					SPK24040151 00
	1	m3			単第0 -0011 表
殻運搬 アスファルト殻					Y1G03271601 レベル4
	0.5	m3			
殻運搬 舗装版破碎 DID区間無し 運搬距離7.0km以下(5.5km超)					SPK24040151 00
	0.5	m3			単第0 -0012 表
殻処分 コンクリート殻(鉄筋)					Y1G03271602 レベル4
	2	t			
【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる					#0041
コンクリート殻(鉄筋)処分費 シンクファーム(株)田万里コンクリートリサイ					F000001000 00
	2	t			

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
殻処分 アスファルト殻	1	t			Y1G03271602レベル4
【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる					#0041
アスファルト殻処分費 (有)トラスト	1	t			F000001100 00
現場発生品運搬 スクラップ	1	回			Y1G03271603レベル4
現場発生品及び支給品運搬 クレーン装置付BT2t級2.9t吊 片道運搬距離4.0km以下(2.0km超)	0.2	t			SPK24040410 00 単第0 -0013 表
スクラップ処分費 スクラップ	0.2	t			Y1G03271602レベル4
スクラップ(H3)	0.2	t			F000001200 00
仮設工	1	式			Y1G0328 レベル2
仮設足場工	1	式			Y3999 レベル3

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
吊足場 安全ネット 板張防護 朝顔両側設置	140	m2			Y4999 レベル4
足場工 桁高1.5m未満	140	m2			S3030011 00 単第0 -0014 表
足場工（朝顔）（床版補強工） 両側朝顔	100	m2			S3030013 00 単第0 -0015 表
防護工（床版補強工） シート張防護工 両側朝顔	120	m2			S3030015 00 単第0 -0016 表
防護工（橋脚回り足場工） シート張防護工 片側朝顔	40	m2			S3030015 00 単第0 -0017 表
交通管理工	1	式			Y1G032821 レベル3
交通誘導警備員	8	人			Y1G03282101 レベル4
交通誘導警備員B	8	人			R0369 00
** 直接工事費 ** #0020計=支給品等(材料),無償貸付					

# 本工事費 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
共通仮設費率分					Z0019
計算情報..... 対象額..... 率.....					
** 共通仮設費計 **					
** 純工事費 **					
現場管理費 計算情報..... 対象額..... 率.....					
** 工事原価 **					
一般管理費率分 計算情報..... 対象額..... 率.....					前払補正率...
契約保証費 計算情報..... 対象額..... 率.....					当初請対額 当初対象額
一般管理費計					



# 施工単価表

とりこわし

SPK24040333

単第0 -0001 表

1 m3 当り  
標準単価： 90,607.00000

機械構成比： 1.75% 労務構成比： 95.42% 材料構成比： 2.83% 市場単価構成比： 0.00%

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>空気圧縮機(エンジンコンプレッサ) 吐出量3.5~3.7m3/min 排出ガス対策型(第1,2次基準値)低騒音	1.36%		空気圧縮機 [可搬式・エンジン掛] 3.5~3.7m3/min		KTPC00011 KTPT00011
さく岩機 コンクリートブレーカ 20kg級	0.39%		さく岩機 コンクリートブレーカ 20kg級		MTPC00037 MTPT00037
特殊作業員	42.75%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	35.87%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	14.03%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	2.83%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 -(全ての費用)					











# 施工単価表

表層(車道・路肩部)

SPK24040241

単第0 -0006 表

平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下)

1層当り平均仕上厚50mm

1

m2 当り

機械構成比: 0.44% 労務構成比:

43.60%

材料構成比: 55.96%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

2,767.40000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
振動ローラ(舗装用) ハンドガイド式 運転質量0.5~0.6t	0.24%		振動ローラ(舗装用) ハンドガイド式 運転質量0.5~0.6t		MTPC00047 MTPT00047
振動コンパクト 前進型 運転質量40~60kg	0.14%		振動コンパクト 前進型 運転質量40~60kg		MTPC00049 MTPT00049
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員	19.29%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	13.81%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	4.17%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
再生加熱アスファルト混合物 再生密粒度(20)	54.13%		密粒度As混合物(20) [標準数量]平均仕上り厚50mm		TTPCD0038 TTPT00284
アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-4タックコート用	1.60%		アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-4タックコート用		TTPC00027 TTPT00027

# 施工単価表

表層(車道・路肩部)

SPK24040241

単第0 -0006 表

平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下)

1層当り平均仕上厚50mm

1

m2 当り

機械構成比: 0.44% 労務構成比: 43.60%

材料構成比: 55.96%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

2,767.40000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ガソリン,レギュラー スタンド渡し,スタンド給油	0.17%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	0.03%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		E9999
A=1 平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下) C=6 再生密粒度アスファルト混合物(20) G=2 小型車割増有 I=1 -(全ての費用)			B=50 1層当り平均仕上り厚(mm) E=1 PK-4 H=1 -		
【アスファルト混合物単価】 1層当り平均仕上り厚(mm)/1000*(アスファルト混合物単価(円)+各種割増合計値) 1層当り平均仕上り厚(mm):50.000(mm)					





# 施工単価表

舗装版切断

SPK24040306

単第0 -0009 表

アスファルト舗装版

アスファルト舗装版厚15cm以下

1

m 当り

機械構成比: 15.42%

労務構成比:

57.13%

材料構成比:

27.45%

市場単価構成比:

0.00%

標準単価:

673.26000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
コンクリートカッタ バキューム式(超低騒音型)・湿式 切削深20cm級ブレード径 56cm	10.49%		コンクリートカッタ バキューム式(超低騒音型)・湿式 切削深20cm級ブレード径 56cm		MTPC00164 MTPT00164
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員	19.60%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役	10.55%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
普通作業員	8.73%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
その他(労務)			その他(労務)		ER009
コンクリートカッタブレード 自走式切断機用 径45cm(18インチ)	23.29%		コンクリートカッタブレード 径18インチ		TTPC00394 TTPT00394
ガソリン,レギュラー スタンド渡し,スタンド給油	2.83%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014
その他(材料)			その他(材料)		EZ009



# 施工単価表

舗装版破碎積込(小規模土工)

SPK24040018

単第0 -0010 表

機械構成比: 20.80% 労務構成比: 71.28% 材料構成比: 7.92% 市場単価構成比: 0.00% 標準単価: 1,690.80000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3	20.80%		小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3		MTPC00077 MTPT00077
運転手(特殊)	71.28%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	7.92%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 -(全ての費用)					

# 施工単価表

殻運搬

SPK24040151

単第0 -0011 表

吹付法面とりこわし(モルタル)

DID区間無し 運搬距離8.5km以下(7.0km超)

1

m3 当り

機械構成比: 21.53% 労務構成比:

64.89% 材料構成比: 13.58% 市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

2,140.50000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
<賃>ダンプトラック 積載質量4t	21.53%		ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 4t積級		KTPC00055 KTPT00055
運転手(一般)	64.89%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	13.58%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=4 吹付法面とりこわし(モルタル) C=1 DID区間無し E=1 -(全ての費用)			B=1 機械積込 D=37 運搬距離8.5km以下(7.0km超)		

# 施工単価表

殻運搬

舗装版破碎

機械構成比: 18.57% 労務構成比: 72.35%

SPK24040151

DID区間無し 運搬距離7.0km以下(5.5km超)

材料構成比: 9.08% 市場単価構成比: 0.00%

単第0 -0012 表

1  
標準単価:

m3 当り  
5,232.90000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	18.57%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00016T1 MTPT00016T1
運転手(一般)	72.35%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	9.08%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=3 舗装版破碎 C=1 DID区間無し E=1 -(全ての費用)			B=4 機械積込(小規模土工) D=31 運搬距離7.0km以下(5.5km超)		

# 施工単価表

現場発生品及び支給品運搬

SPK24040410

単第0 -0013 表

クレーン装置付BT2t級2.9t吊

片道運搬距離4.0km以下(2.0km超)

1

t 当り

機械構成比: 13.58% 労務構成比:

83.54% 材料構成比: 2.88%

市場単価構成比: 0.00%

標準単価:

1,888.50000

代表機材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
トラック クレーン装置付 ベーストラック2t積吊能力2.9t	13.58%		トラック クレーン装置付 ベーストラック2t級吊能力2.9t		MTPC00154 MTPT00154
運転手(特殊)	42.54%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
特殊作業員	41.00%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	2.88%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 C=4 クレーン装置付BT2t級2.9t吊 片道運搬距離4.0km以下(2.0km超)			B=1 DID区間無し		









1.1 補修数量総括表

橋梁名： 菅田橋

レベル1 工事区分	レベル2 工種	レベル3 種別	レベル4 細別	レベル5 規格	単位	数量	計上 【当初】	計上 【変更】	備考	
	橋梁補修工	橋梁地覆補修工	高欄とりこわし工	コンクリート支柱B・C	m3	0.96	1.0		運搬・処分は構造物撤去工へ計上	
			高欄撤去工	鋼製ビーム撤去	鋼製ビーム (φ60.5)	m	63.3	-		撤去作業は、上記橋梁地覆補修工の歩掛(鉄筋の切断)に含むが、スクラップのみ別途計上
		表面保護工	下地処理	サンダーケレン		m2	238.8	239.0		
			含浸材塗布工	固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材 (RCガードCE TYPE-Li相当品)		m2	238.8	239.0		標準使用量：0.20kg/m2×2回塗
		防錆処理工 常温亜鉛めっき	素地調整	2種ケレン		m2	4.2	4.0		
			下塗工	常温亜鉛めっき 高濃度亜鉛末塗料		m2	4.2	4.0		
			下塗	常温亜鉛めっき 高濃度亜鉛末塗料		kg	1.0	1.0		標準塗布量：40μm
				材料ロス		kg	0.3	0.3		ロス率：30%
			上塗工	常温亜鉛めっき 高濃度亜鉛末塗料		m2	4.2	4.0		
			上塗	常温亜鉛めっき 高濃度亜鉛末塗料		kg	1.0	1.0		標準塗布量：40μm
		材料ロス		kg	0.3	0.3		ロス率：30%		
	舗装工	アスファルト舗装工	表層 (車道・路肩部)	再生密粒度(20) t=5cm		m2	9.6	10.0		W=1.4m未満
				タックコート						
	橋梁付属物工	目地部止水工	下地処理	遊間部清掃		m	13.6	13.6		
			目地材充填	目地材充填	ゴム状高弾性目地材 20×40mm	m	13.6	13.6		
				バックアップ材	ウレタンフォーム 20×40mm	φ	10.8	10.8		
		舗装版クラック補修工	クラック抑制シート張	クラック抑制シート b=50cm		m	10.2	10.2		
	水切り設置工	水切工	EPDM系ゴム		m	77.4	77.0			
構造物撤去工	舗装版切断工	舗装版切断	アスファルト舗装 t=15cm以下		m	56.6	57.0		車道部	
	舗装版破碎工	舗装版破碎	アスファルト舗装 (小規模土工) 厚4~10cm以下 積込有り		m2	9.6	10.0			
	運搬処理工	殻運搬	コンクリート構造物 運搬距離7.8km DID区間:無し		m3	0.96	1.0			

橋梁名： 菅田橋

レベル1 工事区分	レベル2 工種	レベル3 種別	レベル4 細別	レベル5 規格	単位	数量	計上 【当初】	計上 【変更】	備考
				舗装版破碎 運搬距離7.0km DID区間:無し	m3	0.48	0.5		
			殻処分	がれき類 コンクリート殻	t	2.2	2.0		
				がれき類 アスファルト殻	t	1.1	1.0		
			現場発生産品運搬	鋼管 (φ60.5)					
	仮設工	仮設足場工	足場工	タイプA1 吊足場 桁高h<1.5	m2	134	140.0		橋脚回り足場 (タイプF) を含む
			足場工	両側朝顔	m2	96	100.0		
			防護工	タイプE シート張防護 両側施工	m2	120	120.0		
			橋脚回り足場	タイプF シート張防護 片側朝顔	m2	38	40.0		

## 1.2 橋梁地覆補修工（高欄撤去工）

補修図（その10）より

### 1.2.1 鋼製ビーム撤去

(1) 鋼製ビーム（φ60.5）

$$L = 31.625 + 31.625 = 63.250 \text{ m}$$

$$63.250 \times 3.30 \text{ kg/m} = 208.725 \text{ kg} \\ (\text{0.2 t})$$

一般構造用炭素鋼鋼管 STK  
Carbon steel tubes for general structure

STK290, STK400, STK490,  
STK500, STK540

JIS G 3444

外径 D (mm)	厚さ t (mm)	単位質量 W (kg/m)	断面積 A (cm <sup>2</sup> )	断面二次 モーメント I (cm <sup>4</sup> )	断面係数 Z (cm <sup>3</sup> )	断面二次 半径 i (cm)	外径 D (mm)	厚さ t (mm)	単位質量 W (kg/m)	断面積 A (cm <sup>2</sup> )	断面二次 モーメント I (cm <sup>4</sup> )	断面係数 Z (cm <sup>3</sup> )	断面二次 半径 i (cm)
1 21.7	2.0	0.972	1.238	0.607	0.560	0.700	1 9.0	99.5	126.7	31 800	1 400	15.8	
2 27.2	2.0	1.24	1.583	1.26	0.930	0.890	2 9.5	105	133.6	33 500	1 470	15.8	
3 27.2	2.3	1.41	1.799	1.41	1.03	0.880	3 12.0	132	167.8	41 600	1 820	15.7	
4 34.0	2.3	1.80	2.291	2.89	1.70	1.12	4 12.7	139	177.3	43 800	1 920	15.7	
5 42.7	2.3	2.29	2.919	5.97	2.80	1.43	5 16.0	174	221.8	54 000	2 360	15.6	
6 42.7	2.5	2.48	3.157	6.40	3.00	1.42	6 19.0	205	261.6	62 900	2 750	15.5	
7 48.6	2.3	2.63	3.345	8.99	3.70	1.64	7 9.0	109	138.8	41 800	1 670	17.4	
8 48.6	2.5	2.84	3.621	9.65	3.97	1.63	8 12.0	144	184.0	54 800	2 190	17.3	
9 48.6	2.8	3.16	4.029	10.6	4.36	1.62	9 14.0	168	213.8	63 200	2 530	17.2	
10 48.6	3.2	3.58	4.564	11.8	4.86	1.61	10 7.9	97.4	124.1	38 800	1 530	17.7	
11 60.5	2.3	3.30	4.205	17.8	5.90	2.06	11 9.0	111	141.1	43 900	1 730	17.6	
12 60.5	3.2	4.52	5.760	23.7	7.84	2.03	12 9.5	117	148.8	46 200	1 820	17.6	
13 60.5	4.0	5.57	7.100	28.5	9.41	2.00	13 12.0	147	187.0	57 500	2 270	17.5	
14 76.3	2.8	5.08	6.465	43.7	11.5	2.60	14 12.7	155	197.6	60 600	2 390	17.5	
15 76.3	3.2	5.77	7.349	49.2	12.9	2.59	15 14.0	171	217.3	66 300	2 610	17.5	
16 76.3	4.0	7.13	9.085	59.5	15.6	2.58	16 16.0	194	247.3	74 900	2 950	17.4	

### 1.2.2 橋梁地覆とりこわし工

(1) 鉄筋構造物 人力施工

親柱（残置）

$$v1 = 0.525 \times 0.225 \times 0.210 \times 4 = 0.000 \text{ m}^3$$

支柱A（残置）

$$v2 = 0.430 \times 0.170 \times 0.055 \times 4 = 0.000 \text{ m}^3$$

支柱B（撤去）

$$v3 = 0.430 \times 0.170 \times 0.165 \times 72 = 0.868 \text{ m}^3$$

支柱C（撤去）

$$v4 = 0.430 \times 0.170 \times 0.100 \times 12 = 0.088 \text{ m}^3$$

$$\Sigma V = 0.956 \text{ m}^3$$

### 1.2.3 殻運搬（※運搬処理工にて計上）

(1) コンクリート構造物

$$V = 0.956 = 0.956 \text{ m}^3$$

### 1.2.4 殻処分（がれき類）（※運搬処理工にて計上）

$$V = 0.956 = 0.956 \text{ m}^3$$

$$W = 0.956 \times 2.35 \text{ t/m}^3 = 2.247 \text{ t}$$

### 1.3 表面保護工（表面含浸工）

補修図（その1～7）より

#### 1.3.1 表面含浸工（固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材（RCガードCE TYPE-Li相当品））

- (1) 下地処理（サンダーケレン）

$$A = 238.798 \qquad \qquad \qquad = 238.798 \text{ m}^2$$

- (2) 含浸材塗布工（固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材（RCガードCE TYPE-Li相当品））

$$A = 238.798 \qquad \qquad \qquad = 238.798 \text{ m}^2$$

- (3) 含浸材（固化型ケイ酸リチウム系表面含浸材（RCガードCE TYPE-Li相当品））

$$w1 = 238.798 \times 0.20 \text{ kg/m}^2 \times 2\text{回塗り} \qquad \qquad \qquad = 95.519 \text{ kg}$$

標準使用量（ロス率含む）  
※使用材料は、RCガードCE TYPE-Liを見込む。

$$\begin{array}{r} = 0.000 \text{ kg} \\ \hline \Sigma W = 95.519 \text{ kg} \end{array}$$

1.3.2 表面保護工 数量表

番号	部 位	形 状 ・ 寸 法 ( m )	個数	面積 (m <sup>2</sup> )	備 考
P	桁下面(第1径間)				
1		4.378 × 9.750	1	42.686	
2		- 0.250 × 0.450	2	-0.225	
3		- 1.450 × 0.180	2	-0.522	
4		- 0.250 × 0.390	2	-0.195	
5		- 1.450 × 0.200	1	-0.290	
6		- $\pi/4 \times 0.035^2$	4	-0.004	
7		0.330 × 9.750	1	3.218	
8		0.340 × 9.750	1	3.315	
	小計			47.983	
P	桁下面(第2径間)				
1		4.378 × 9.550	1	41.810	
2		- 0.250 × 0.390	4	-0.390	
3		- 1.450 × 0.200	3	-0.870	
4		- $\pi/4 \times 0.035^2$	4	-0.004	
5		0.330 × 9.550	1	3.152	
6		0.340 × 9.550	1	3.247	
	小計			46.945	
P	桁下面(第3径間)				
1		4.378 × 9.650	1	42.248	
2		- 0.250 × 0.390	4	-0.390	
3		- 1.450 × 0.200	3	-0.870	
4		- $\pi/4 \times 0.035^2$	4	-0.004	
5		0.330 × 9.650	1	3.185	
6		0.340 × 9.650	1	3.281	
	小計			47.450	
P	桁下面(第4径間)				
1		4.378 × 9.750	1	42.686	
2		- 0.250 × 0.390	2	-0.195	
3		- 1.450 × 0.180	2	-0.522	
4		- 0.250 × 0.475	2	-0.238	
5		- 1.450 × 0.200	1	-0.290	
6		- $\pi/4 \times 0.035^2$	4	-0.004	
7		0.330 × 9.750	1	3.218	
8		0.340 × 9.750	1	3.315	
	小計			47.970	
P	横桁				
1'	(第1径間)	0.960 × 0.240	4	0.922	
2'	"	0.960 × 0.180	2	0.346	
3'	"	0.960 × 0.200	1	0.192	
4'	(第2径間)	0.960 × 0.240	4	0.922	
5'	"	0.960 × 0.200	3	0.576	
6'	(第3径間)	0.960 × 0.240	4	0.922	
7'	"	0.960 × 0.200	3	0.576	

番号	部 位	形 状 ・ 寸 法 ( m )	個数	面積 ( $m^2$ )	備 考
8'	(第4径間)	0.960 × 0.240	4	0.922	
9'		0.960 × 0.180	2	0.346	
10'		0.960 × 0.200	1	0.192	
	小計			5.916	
P	P1橋脚				
1		0.400 × 2.410	2	1.928	
2		0.400 × 0.800	2	0.640	
3		$1/2 \times (0.800 + 0.300) \times 0.285$	2	0.314	
4		$1/2 \times (2.410 + 2.004) \times 0.320$	2	1.412	
5		0.300 × 2.004	1	0.601	
6		- 0.071	10	-0.710	CAD求積より
7		0.800 × 2.410	1	1.928	
8		- 0.300 × 0.250	4	-0.300	
9		0.310 × 1.650	2	1.023	
10		0.310 × 0.942	2	0.584	
11		0.305 × 2.010	2	1.226	
12		0.305 × 0.942	2	0.575	
13		0.600 × 1.650	2	1.980	
14		$\pi/4 \times 1/2 \times 0.600^2$	4	0.565	
15		0.600 × 2.010	2	2.412	
	小計			14.178	
P	P2橋脚				
1		0.400 × 2.410	2	1.928	
2		0.400 × 0.800	2	0.640	
3		$1/2 \times (0.800 + 0.300) \times 0.285$	2	0.314	
4		$1/2 \times (2.410 + 2.004) \times 0.320$	2	1.412	
5		0.300 × 2.004	1	0.601	
6		- 0.071	10	-0.710	CAD求積より
7		0.800 × 2.410	1	1.928	
8		- 0.300 × 0.250	4	-0.300	
9		0.310 × 1.650	2	1.023	
10		0.310 × 0.942	2	0.584	
11		0.305 × 2.010	2	1.226	
12		0.305 × 0.942	2	0.575	
13		0.600 × 1.650	2	1.980	
14		$\pi/4 \times 1/2 \times 0.600^2$	4	0.565	
15		0.600 × 2.010	2	2.412	
	小計			14.178	
P	P3橋脚				
1		0.400 × 2.410	2	1.928	
2		0.400 × 0.800	2	0.640	
3		$1/2 \times (0.800 + 0.300) \times 0.285$	2	0.314	
4		$1/2 \times (2.410 + 2.004) \times 0.320$	2	1.412	
5		0.300 × 2.004	1	0.601	
6		- 0.071	10	-0.710	CAD求積より
7		0.800 × 2.410	1	1.928	
8		- 0.300 × 0.250	4	-0.300	



## 1.4 防錆処理工

補修図（その9）より

### 1.4.1 防錆処理工（常温亜鉛めっき 高濃度亜鉛末塗料）

(1) 素地調整（2種ケレン）

$$A = 0.280 \times 8 + 0.240 \times 8 = 4.160 \text{ m}^2$$

(2) 下塗工（常温亜鉛めっき 高濃度亜鉛末塗料）

$$A = 4.160 = 4.160 \text{ m}^2$$

(3) 下塗（常温亜鉛めっき 高濃度亜鉛末塗料 標準塗布量：40  $\mu\text{m}$ ）

$$W = 4.160 \times 0.25 \text{ kg/m}^2 = 1.040 \text{ kg}$$

標準使用量

$$W = 1.040 \times 0.30 = 0.312 \text{ kg}$$

ロス率30%

$$\Sigma W = 1.352 \text{ kg}$$

※100m<sup>2</sup>当り塗布量

$$100.000 \times 0.25 \text{ kg/m}^2 \times 0.30 = 32.500 \text{ kg}$$

ロス率30%

(4) 上塗工（常温亜鉛めっき 高濃度亜鉛末塗料）

$$A = 4.160 = 4.160 \text{ m}^2$$

(5) 上塗（常温亜鉛めっき 高濃度亜鉛末塗料 標準塗布量：40  $\mu\text{m}$ ）

$$W = 4.160 \times 0.25 \text{ kg/m}^2 = 1.040 \text{ kg}$$

標準使用量

$$W = 1.040 \times 0.30 = 0.312 \text{ kg}$$

ロス率30%

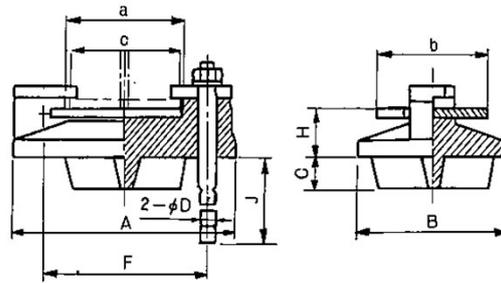
$$\Sigma W = 1.352 \text{ kg}$$

※100m<sup>2</sup>当り塗布量

$$100.000 \times 0.25 \text{ kg/m}^2 \times 0.30 = 32.500 \text{ kg}$$

ロス率30%

・ 支承防錆面積については、推定反力から下表を参考にして防錆面積の算出を行った。



1) 線支承(LB)

設 計 条 件						固 定 可動の 区 別	上部工との取合 寸法 mm			下部工との取合 寸法 mm						支 承 高 さ H mm	支 承 重 量 kgf	支 承 塗 装 面 積 m <sup>2</sup>
全反力 tf	橋軸方向水平力 tf		橋軸直角 方向地震 時水平力 tf	上揚力 tf 地震時	計 算 移 動 量 mm		a	b	c	A	B	C	D	F	J			
	移動時	地震時																
30	6	10.8	5.4	2.25	20	固定	216	170	200	420	240	50	28	300	440	77	52.4	0.28
30	6	5.4	5.4	2.25	20	可動	216	190	200	420	240	50	28	300	440	77	52.9	0.24
40	8	14.4	7.2	3.0	20	固定	216	180	200	420	260	60	32	300	480	82	61.5	0.30
40	8	7.2	7.2	3.0	20	可動	216	200	200	420	260	60	32	300	480	82	62.1	0.26
50	10	18.0	9.0	3.75	20	固定	216	190	200	420	280	75	36	300	560	87	71.9	0.31
50	10	9.0	9.0	3.75	20	可動	216	210	200	420	280	75	36	300	565	87	72.5	0.27
75	15	27.0	13.5	5.63	20	固定	266	240	250	510	340	80	46	370	730	100	127.5	0.46
75	15	13.5	13.5	5.63	20	可動	266	250	250	510	340	80	42	370	640	100	121.5	0.38
100	20	36.0	18.0	7.5	20	固定	316	290	300	610	400	80	55	440	840	115	202.1	0.63
100	20	18.0	18.0	7.5	20	可動	316	300	300	610	400	80	50	440	760	115	191.1	0.52

出典：'93デザインデータブック より

## 1.5 アスファルト舗装工

補修図（その8）より

### 1.5.1 表層

(1) 車道・路肩部（再生密粒度(20) t=5cm タックコート）

$$\begin{aligned} A = & 1.020 \times 5 + 0.225 + 0.105 + 0.390 \\ & + 0.750 + 0.960 + 1.720 + 0.300 = 9.550 \text{ m}^2 \end{aligned}$$

## 1.6 橋梁付属物工

### 目地部止水工（目地材充填）

補修図（その8）より

#### 1.6.1 下地処理（遊間部清掃）

$$L = 2.710 + 2.710 + 2.710 + 2.710 + 2.710 = 13.550 \text{ m}$$

#### 1.6.2 目地材充填（ゴム状高弾性目地材）

(1) 20×40mm

$$L1 = 2.710 + 2.710 + 2.710 + 2.710 + 2.710 = 13.550 \text{ m}$$

$$L2 = 13.550 \times \frac{0.20}{\text{ロス率20\%}} = 2.710 \text{ m}$$
$$\Sigma L1 = 16.260 \text{ m}$$

#### 1.6.3 バックアップ材（ウレタンフォーム）

(1) 20×40mm

$$v1 = 13.550 \times 0.020 \times 0.040 \times 1000 \text{ } \ell/\text{m}^3 = 10.840 \text{ } \ell$$

$$v2 = 10.840 \times \frac{0.20}{\text{ロス率20\%}} = 2.168 \text{ } \ell$$
$$\Sigma V = 13.008 \text{ } \ell$$

#### 1.6.4 クラック抑制シート（ガラス基材 b=50cm）

車道部

$$L1 = 2.040 \times 5 = 10.200 \text{ m}$$

材料ロス

$$L2 = 10.200 \times \frac{0.11}{\text{ロス率11\%}} = 1.122 \text{ m}$$

#### 1.6.5 クラック防止シート張（クラック抑制シート）

$$L = 10.200 = 10.200 \text{ m}$$

### 水切り設置工

#### 1.6.6 水切り工（EPDM系スポンジ）

$$L1 = ( 9.750 + 9.550 + 9.650 + 9.750 ) \times 2 = 77.400 \text{ m}$$

## 1.7 構造物撤去工

### 舗装版切断工

#### 1.7.1 舗装版切断（アスファルト舗装 t=15cm以下）

(1) 車道部（t=5cm(想定)）

$$\begin{aligned} L = & 5.080 \times 5 + 2.100 + 1.300 + 3.200 \\ & + 5.600 + 7.000 + 9.400 + 2.600 = 56.600 \text{ m} \end{aligned}$$

### 舗装版破碎工

補修図（その8）より

#### 1.7.2 舗装版破碎

(1) アスファルト舗装 障害有り 厚4~10cm以下 積込有り

1) t=5cm（平均）

$$\begin{aligned} A = & 1.020 \times 5 + 0.225 + 0.105 + 0.390 \\ & + 0.750 + 0.960 + 1.720 + 0.300 = 9.550 \text{ m}^2 \end{aligned}$$

#### 1.7.3 殻運搬（※運搬処理工にて計上）

(1) 舗装版破碎

$$V = 9.550 \times 0.050 = 0.478 \text{ m}^3$$

#### 1.7.4 殻処分（がれき類）（※運搬処理工にて計上）

$$V = 0.478 = 0.478 \text{ m}^3$$

$$W = 0.478 \times 2.35 \text{ t/m}^3 = 1.123 \text{ t}$$

## 1.8 仮設足場工

仮設図（参考図）より

### 1.8.1 吊足場

(1) 吊足場（タイプA1 吊足場 桁高 $h < 1.5$ ）

$$a1 = 8.930 \times 2.710 = 24.200 \text{ m}^2$$

$$a2 = 8.770 \times 2.710 = 23.767 \text{ m}^2$$

$$a3 = 8.870 \times 2.710 = 24.038 \text{ m}^2$$

$$a4 = 8.885 \times 2.710 = 24.078 \text{ m}^2$$

$$\Sigma A = 96.083 \text{ m}^2$$

(2) 床面シート張防護（床面シート張防護設置時）

$$A = 96.083 = 96.083 \text{ m}^2$$

### 1.8.2 片側朝顔防護足場（タイプE シート張防護 両側施工）

$$A = 38.760 \times (0.750 + 0.8) \times 2 = 120.156 \text{ m}^2$$

### 1.8.3 橋脚回り足場（タイプF）

(1) 橋脚回り足場

$$A = (2.250 + 1.000 \times 2) \times 1.500 \times 6 = 38.250 \text{ m}^2$$

(2) 床面部（タイプF 床面にシート張防護を追加）

$$A = 38.250 = 38.250 \text{ m}^2$$

(3) 朝顔部（タイプF 手摺を朝顔に変更）

$$A = 38.250 = 38.250 \text{ m}^2$$

(4) 朝顔部（タイプF 朝顔にシート張防護を追加）

$$A = 38.250 = 38.250 \text{ m}^2$$

仮設工・警備員計算表

工種	種別	規格・寸法	単位	数量	日施工量	作業日数	警備員	吊足場工	日施工量 出典先
橋梁地覆補修工	高欄とりこわし	とりこわし	m3	1	1.4	0.714		0.714	R6 I-243
ひび割れ注入工	ひび割れ注入工	25m未満	m		13.4	0.000		0.000	R4 I-162
		25m以上	m		25.6	0.000		0.000	R4 I-162
断面修復工 (左官)	断面修復工	0.1m3未満	m3		0.020	0.000		0.000	R4 I-162
		鉄筋ケレン・防錆処理含む	0.1m3以上	m3		0.069	0.000		0.000
	断面修復工	0.1m3未満	m3		0.024	0.000		0.000	R4 I-162
		鉄筋ケレン・防錆処理含まない	0.1m3以上	m3		0.081	0.000	0.000	0.000
表面保護工	下地処理工	固定足場	m2	207	85.000	2.435		2.435	土木施工単価P495
	表面含浸工	A<100㎡	m2		145	0.000		0.000	土木施工単価P495
	表面含浸工	100㎡≦A<300㎡	m2	207	145	1.428		1.428	土木施工単価P495
	表面含浸工	300㎡≦A	m2		145	0.000		0.000	土木施工単価P495
防錆処理工	素地調整		m2	4	7.6	0.526		0.526	橋梁架設工事の積算 P4-48
	下塗工	常温亜鉛めっき	m2	4	58.6	0.068		0.068	橋梁架設工事の積算 P4-48
	上塗工	常温亜鉛めっき	m2	4	58.6	0.068		0.068	橋梁架設工事の積算 P4-48
舗装工	橋面防水工	スーパーロメンパッチDN工法	㎡		59	0.000	0.000		R4基 I P309
	橋面防水工	塗膜系 補修	㎡		170	0.000	0.000		R4基 I P309
	舗装工	表層 車道部 W<1.4 t≦5cm	㎡	10	250	0.040	0.040		R4基 I P242
	舗装工	薄層舗装 車道部 1.4≦W<3.0	㎡		1300	0.000	0.000		R4基 I P242
	舗装工	薄層舗装 車道部 3.0m≦W	㎡		2300	0.000	0.000		R4基 I P242
橋梁付属物工	クラック抑制シート		m	10.2	930	0.011	0.011		R4基 I P256
	伸縮目地再設置	バックアップ材+シール材	m	13.6	20	0.680	0.680		R4基 I P256
	伸縮装置取替工	補修	m		3.6	0.000	0.000		R4- I 274
	水切工	軟質PVC	m	77	167	0.462		0.462	見積採用歩掛か世話役 が1になるよう割戻し
構造物撤去工	舗装切断		m	57	203	0.281	0.281		R6基 I P238
	舗装撤去	小規模土工	㎡	10	23	0.435	0.435		R6基 I P147
	転落防止柵撤去	アンカーボルト固定 ビーム・パネル式L=2.0m	m		110	0.000	0.000		R4基 I P288
	転落防止柵設置	アンカーボルト固定 ビーム・パネル式L=2.0m	m		60	0.000	0.000		R4基 I P288
仮設工	足場工(板張防護含む)	桁高1.5m未満	m2	100	38	2.632	2.000	2.000	足場材料の積み下ろしの2日間の計上とする
	朝顔	両側	m2	100	227	0.441			R4 I-250
	防護工(シート張防護)	両側	m2	100	1250	0.080			R4 I-250
						計	3.45	7.0	
							警備員人数(2人/日)	8	
							足場供用日数		13